

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年12月18日

【事業年度】 第20期(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社C R I ・ミドルウェア

【英訳名】 CRI Middleware Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 押見 正雄

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区渋谷一丁目7番7号 住友不動産青山通ビル9階

【電話番号】 03 - 6418 - 7083

【事務連絡者氏名】 コーポレート本部長 有本 貴裕

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区渋谷一丁目7番7号 住友不動産青山通ビル9階

【電話番号】 03 - 6418 - 7083

【事務連絡者氏名】 コーポレート本部長 有本 貴裕

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月	2016年9月	2017年9月	2018年9月	2019年9月	2020年9月
売上高 (千円)	1,334,746	1,258,962	1,641,250	1,784,025	2,349,739
経常利益 (千円)	314,087	120,015	413,787	371,699	457,894
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	203,377	80,054	284,467	259,308	373,748
包括利益 (千円)	192,879	86,441	296,272	243,354	369,083
純資産額 (千円)	1,838,761	1,928,807	2,340,207	2,697,735	3,681,200
総資産額 (千円)	2,456,282	3,463,525	4,259,959	4,397,292	5,236,711
1株当たり純資産額 (円)	388.08	405.91	483.63	544.12	678.28
1株当たり 当期純利益金額 (円)	45.55	16.94	59.79	53.26	70.60
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	39.15	14.90	50.75	44.76	64.86
自己資本比率 (%)	74.5	55.5	54.5	60.8	69.9
自己資本利益率 (%)	12.3	4.3	13.4	10.4	11.8
株価収益率 (倍)	92.32	112.34	48.17	32.58	23.95
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	275,389	74,863	372,784	118,898	445,642
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	349,406	94,418	188,015	59,867	133,102
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	476,903	1,018,421	115,538	114,396	146,602
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,418,539	2,424,593	2,725,337	2,891,796	3,349,968
従業員数 (人)	71	82	104	109	188

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 臨時従業員数が、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第19期の期首から適用しており、第18期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月	2016年 9 月	2017年 9 月	2018年 9 月	2019年 9 月	2020年 9 月
売上高 (千円)	1,334,789	1,258,962	1,591,036	1,586,189	1,677,441
経常利益 (千円)	314,472	120,698	417,844	381,973	406,759
当期純利益 (千円)	205,028	80,825	291,253	267,633	292,574
資本金 (千円)	420,753	422,851	426,814	480,345	758,426
発行済株式総数 (株)	4,915,418	4,931,618	4,962,218	5,073,918	5,518,350
純資産額 (千円)	1,841,438	1,925,868	2,343,609	2,704,857	3,607,513
総資産額 (千円)	2,459,668	3,460,586	4,193,076	4,323,193	4,987,796
1株当たり純資産額 (円)	388.65	405.29	484.34	547.28	666.17
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	( )	( )	( )	( )	( )
1株当たり 当期純利益金額 (円)	45.92	17.10	61.22	54.97	55.26
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	39.47	15.04	51.96	46.19	50.78
自己資本比率 (%)	74.5	55.4	55.5	62.2	72.1
自己資本利益率 (%)	12.5	4.3	13.7	10.7	9.3
株価収益率 (倍)	91.57	111.29	47.04	31.56	30.60
配当性向 (%)					
従業員数 (人)	71	82	85	87	96
株主総利回り (%) (比較指標：東証マ ザーズ指数)	337.8 (123.60)	152.9 (142.5)	231.3 (140.5)	139.4 (114.2)	135.8 (159.9)
最高株価 (円)	4,985	4,280	3,080	4,320	2,185
最低株価 (円)	1,133	1,810	1,759	1,681	886

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 臨時従業員数が、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

3. 最高・最低株価は、東京証券取引所市場マザーズにおける株価を記載しております。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第19期の期首から適用しており、第18期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## 2 【沿革】

当社の前身は、1983年に株式会社C S K(現S C S K株式会社)の子会社でソフトウェア技術の研究所として設立された株式会社C S K総合研究所になります。設立当初は人工知能(A I)等の研究を行っていましたが、音声・映像関連の研究を進める過程で、当時、株式会社C S Kのグループ会社であった株式会社セガ・エンタープライゼス(現株式会社セガ、以下「セガ」という)との関係が深まり、セガの家庭用ゲーム機向け基本ソフト(ミドルウェア)やアプリケーションソフト(ゲーム)の開発を手掛けるようになりました。

その後、セガの子会社となりましたが、2001年1月、セガが家庭用ゲーム機のハードウェア事業から撤退することになり、これを受け株式会社C S K総合研究所のミドルウェア事業は、セガ以外の各社家庭用ゲーム機向け(マルチプラットフォーム)に展開することにいたしました。この展開のためには株式会社セガとの資本面での関与を薄める必要があり、2001年8月、株式会社C S K総合研究所からミドルウェア部門が独立する形で当社が設立されました。

企業集団に係る重要な事項は以下のとおりであります。

年月	事項
2001年8月	東京都大田区に資本金1千万円で、ミドルウェアの開発・販売を目的として、株式会社シーアールアイ・ミドルウェア(当社)を設立 株式会社C S K総合研究所の100%子会社
2002年5月	事業所を東京都港区南青山に設置(研究開発及び営業拠点)
2004年5月	当社役員・従業員によるE B Oの形で、親会社から資本独立
2005年1月	本社を東京都港区南青山に移転 商号を株式会社C R I ・ミドルウェアに変更
2006年2月	米国カリフォルニア州に100%出資の連結子会社CRI Middleware, Inc.(現連結子会社)を設立
2009年10月	本社を東京都渋谷区渋谷に移転
2014年11月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2018年5月	株式会社ウェブテクノロジー(現連結子会社)の全株式を取得し子会社化
2019年5月	中国上海市に70%出資の連結子会社上海希艾維信息科技有限公司(現連結子会社)を設立
2019年10月	株式会社ツーフাইブ(現連結子会社)の全株式を取得し子会社化
2020年5月	株式会社アールフォース・エンターテインメント(現連結子会社)の全株式を取得し子会社化

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社6社で構成されており、主に「CRIWARE®（シーアールアイウェア）」及び「OPTiX（オプトピックス）」というブランドでソフトウェア製品の許諾販売を行っております。また、許諾販売に関連する受託開発や音響制作、ゲーム開発・運営等も行っております。

これまで、当社グループは、ミドルウェア事業の単一セグメントで事業展開しておりましたが、顧客・マーケットを総合的に勘案し、当連結会計年度より報告セグメントの区分を行っております。

各セグメントの事業内容と主要な関係会社は以下のとおりであります。

#### （ゲーム事業）

主にゲーム業界向けに、ゲーム開発をスムーズかつ効率的に行うための音声・映像関連ミドルウェア( )の提供や、画像最適化ソリューションの提供、音響制作、ゲーム開発・運営等を行っております。

取り扱う主な会社：当社、株式会社ウェブテクノロジー、株式会社ツーフাইブ、株式会社アールフォース・エンターテインメント、上海希艾維信息科技有限公司

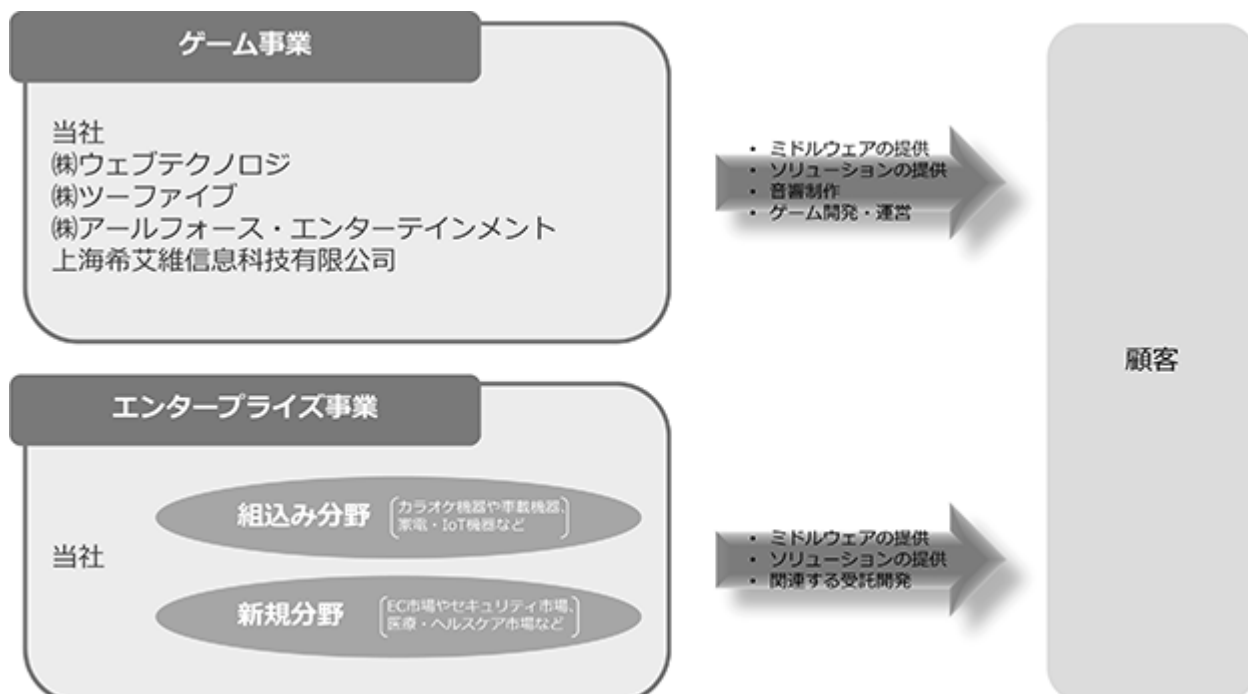
#### （エンタープライズ事業）

ゲーム事業で培った音声・映像関連の技術を活かし、主にゲーム業界以外の業界向けに、音声・映像関連ミドルウェアやソリューションの提供、関連する受託開発等を行っております。特にカラオケ機器や車載機器、家電・IoT機器などの組込み分野や、EC市場やセキュリティ市場、医療・ヘルスケア市場などの新規分野に注力しております。

取り扱う主な会社：当社

ミドルウェアとは、ハードウェアやOSと、アプリケーションソフトウェアとの中間（ミドル）に位置するソフトウェアをいいます。ミドルウェアは、ハードウェアやOSの特性を押さえながら違いを吸収し、その上で実行されるアプリケーションソフトウェアの動作や開発をスムーズにし、クオリティの向上、開発工数の削減、開発期間の短縮、開発難易度の低減などの効果を生みます。また、アプリケーションを多くのプラットフォームに展開し易くし、顧客のビジネス拡大にも貢献します。

事業の系統図は、次のとおりであります。



※矢印はサービスの主な流れです。

## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 [被所有] 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社ウェブテクノロジー (注) 1	東京都渋谷区	10,000千円	ゲーム事業	100.0	役員の兼任... 2名
(連結子会社) 株式会社ツーファイブ (注) 1、3	東京都豊島区	3,200千円	ゲーム事業	100.0	役員の兼任... 2名
(連結子会社) 株式会社アールフォース・エンターテインメント (注) 1、2	東京都渋谷区	80,000千円	ゲーム事業	100.0	役員の兼任... 2名
(連結子会社) 上海希艾維信息科技有限公司 (注) 1	中国上海市	2,000千中国 元	ゲーム事業	70.0	役員の兼任... 3名
(連結子会社) その他2社					

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 特定子会社であります。

3. 株式会社ツーファイブについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。主要な損益情報は以下のとおりであります。

(1) 売上高	240,563千円
(2) 経常損失( )	13,329千円
(3) 当期純損失( )	12,468千円
(4) 純資産額	15,313千円
(5) 総資産額	130,623千円

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

2020年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
ゲーム事業	130
エンタープライズ事業	39
全社(共通)	19
合計	188

- (注) 1. 従業員数は、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。  
 2. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。  
 3. 臨時従業員等は従業員数の10%未満であるため記載を省略しております。  
 4. 当連結会計年度において、従業員数に著しい変動がありました。これは、ゲーム事業におきまして株式会社ソーフାଇブ及び株式会社アールフォース・エンターテインメントを連結子会社化したことによるものであります。

## (2) 提出会社の状況

2020年9月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
96	37.5	7.5	6,428,048

セグメントの名称	従業員数(人)
ゲーム事業	45
エンタープライズ事業	39
全社(共通)	12
合計	96

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除く就業人員数であります。  
 2. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。  
 3. 平均年間給与は、基準内給与に加えて通勤費以外の基準外給与及び賞与を含んでおります。  
 4. 臨時従業員等は従業員数の10%未満であるため記載を省略しております。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社は、「音と映像で社会を豊かに」を企業理念に掲げ、設立以来、感動を伝える音声・映像関連の独自技術の研究開発を通じて、豊かな社会の創造に貢献する企業となることをめざしております。

#### (2) 経営戦略

当社は、設立以来、主に音声・映像関連の技術を得意として研究開発を行い、「CRIWARE」として、エンターテインメント分野を中心に展開してまいりました。今後は、近年のスマートフォンゲーム市場の拡大など、環境の変化に柔軟に対応していくとともに、海外市場における顧客獲得に注力してまいります。

また、エンターテインメント以外の市場の開拓にも積極的に取り組み、従来の延長線上にない事業拡大を図り、収益力を高めていく方針であります。これからも研究開発型の企業として新技術・新製品の開発に積極的に取り組み、グローバルスタンダードなプロダクトラインナップをめざします。

#### (3) 目標とする経営指標

当社グループは、中長期的な事業拡大と企業価値向上をめざしており、売上高の持続的な成長と20%程度の営業利益率を重要な経営指標としております。

#### (4) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループを取り巻く経営環境は、技術革新のスピードが速く、最新のトレンドが目まぐるしく変化する厳しい環境であります。また、新型コロナウイルス感染症が経済に与える影響についても極めて不確実性が大きく、感染症の影響の収束にどの程度の期間を要するかといった点は非常に不透明な状況であります。

このような環境の中、当社グループは、ゲーム事業で得られた技術やノウハウ、知見、資金を、エンタープライズ事業の研究開発や営業強化に投下することで、事業領域を拡げ、グループ全体で飛躍的な成長をめざします。また、テレウェア構想を基軸に製品やサービスを進化させ、新しいビジネスの創造を行います。

セグメント別には、次の課題に取り組んでまいります。

##### ゲーム事業

国内は、スマートフォンのビジネスを着実に伸ばすとともに、今後リリースが予定されている新ゲームプラットフォームにも対応いたします。また、従来のミドルウェアのロイヤリティモデルだけでなく、ウェブテクノロジーとともに新たな収益モデルを創造し、事業拡大をめざします。海外は、中国市場に対する従来のロイヤリティビジネスの拡大に注力するとともに、新たな事業モデルにも挑戦し、CRIWAREの海外への普及をめざします。

##### エンタープライズ事業

組込み分野につきましては、カラオケ向けは業務用主力ソフト開発によって事業拡大を図るとともに、当社の音声・映像技術を活用することで付加価値の高い事業をめざします。車載向けは音声に加えて映像のノウハウを高付加価値の開発・サービスとして提供し、より多くの自動車関連メーカーとの事業拡大をめざします。遊技機向けは特定メーカーとの関係を強化し、安定したロイヤリティ収益の獲得を目論みます。組込み向けミドルウェアはIoTに対応させ、新たな事業領域をめざします。

新規分野につきましては、動画向けソリューションは、監視カメラで得られたノウハウを組込み機器に対応し、Terafence社のセキュリティ技術とともにグローバルに事業を進めます。Web動画ソリューションは、Web動画技術のデファクトスタンダードのポジションを取るとともに、自動進行モデルによる高利益率の事業をめざします。また、新たにリリースしたデジタル展示会プラットフォームを横展開し、様々なビジネス領域での動画プラットフォームとして急速な事業拡大を目論みます。



## 2 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクとはいえない内容についても、投資家の投資判断において重要と考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から開示いたします。

なお、当社グループはこれらのリスクが発生する可能性を十分認識した上で、発生回避や、万が一発生した場合の対応に努める方針であります。当社株式に対する投資判断は、以下の記載事項及び本項以外の記載事項を慎重に検討された上で行われる必要があります。また、本項の記載内容は、当社グループの事業もしくは当社株式への投資に関するリスクのすべてを網羅するものではありません。

なお、本項における記載事項は、当連結会計年度末現在における当社の認識を基に記載したものであり、将来の環境の変化等によって、本項の認識が変化する可能性があります。

### 株式会社セガグループとの関係について

取引関係においては、株式会社セガグループ（旧：株式会社セガホールディングス）の子会社である株式会社セガ（旧：株式会社セガゲームス）は、ゲーム関連コンテンツの企画・開発・販売事業で世界展開しており、当社グループの重要な顧客の1社であります。2020年9月期における取引関係は、当社グループから株式会社セガに対するミドルウェアの許諾販売取引で160,362千円（当社グループの売上高全体に占める割合は6.82%）となっており、今後、株式会社セガが何らかの理由によって当社ミドルウェアの採用を中止した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

人的関係においては、当社は、株式会社セガグループの元コーポレート本部財務部参事の金成壽及氏を監査役（現：取締役（監査等委員））として招聘した経緯がありますが、この招聘は、同氏が金融機関時代及び株式会社セガの管理部門で培った識見等を当社のコーポレート・ガバナンス体制の更なる充実に資するためのもので

### 事業内容に関するリスクについて

- a. 当社の主要製品である音声・映像関連ミドルウェアは、顧客の開発環境に組み込まれて継続的に使用される特性があるため、容易に乗り換えることが困難であり、これまでの実績やサポートノウハウ、長年の研究開発の蓄積が他社の参入障壁になっていると考えております。しかしながら、今後、他社が競争優位性の高いミドルウェア製品を開発、市場投入した場合には当社グループの業績に影響を与えることがあります。
- b. 当社グループの株式会社アールフォース・エンターテインメントは、大手ゲームパブリッシャーからの受託を中心に計画的にゲーム開発を行っておりますが、大幅な開発の遅延、契約内容や仕様・納期の変更など、当初の想定を上回る変動が生じた場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 会社組織のリスクについて

#### 人材の確保及び育成並びに技術者の退職等に関連するリスクについて

当社グループの事業は高い技術力が必要とされ、優秀な技術者を確保し育成することが重要であります。そのため当社グループでは、高い資質を持つ社員を厳選して採用し、技術面と人格面からの育成に注力しております。また、社員が常に高いモチベーションを持って働けるよう、職場環境の向上や企業風土の醸成を心がけています。しかしながら、何らかの理由で短期間に集中して多数の技術者が退職する事態が発生した場合、当社グループの技術力や開発力が低下し、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 投資リスクについて

当社グループは、M&Aや資本業務提携による積極的な事業拡大を推進しております。投資対象の検討は慎重に行っておりますが、投資後、計画通りに進まない場合には、評価損が発生し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### その他

- a. ストックオプション及び第三者割当新株予約権の行使による株式価値の希薄化について

当社は、取締役及び従業員の業績向上に対する意欲や士気を高めることを目的に、会社法の規定に従ってストックオプションとして、2013年11月14日に第2回新株予約権（2013年10月30日開催の臨時株主総会決議）、2015年12月18日に第3回新株予約権（2015年11月12日開催の取締役会決議）及び2018年2月15日に第5回新株予約権（2018年1月18日開催の取締役会決議）を発行しております。

また、第三者割当新株予約権として、2017年7月18日に第3回無担保転換社債型新株予約権付社債（2017年6月30日開催の取締役会決議）を発行しております。2020年9月末日現在、新株予約権の潜在株式数の合計は826,600株であり、発行済株式総数5,518,350株の15.0%に相当します。これらが行使された場合、当社株式価値の希薄化や株式売上の需給への影響をもたらす、当社グループの株価形成に影響を及ぼす可能性があります。

す。

b. 特許など知的財産や訴訟に関するリスクについて

当社のミドルウェア技術は、公開された音声・映像規格に準拠したデジタルデータに関する処理技術ですが、特許出願は保有する技術の詳細を公開することになり第三者が盗用する危険性があります。また、第三者が盗用した場合、ソフトウェアの性質から盗用を断定することが困難であるため、保有技術を公開することになる特許出願は積極的には行っておらず、慎重に判断して実施しております。

c. 新型コロナウイルス感染症に関するリスク

新型コロナウイルス感染症が長期に及んだ場合、当社グループの事業活動においても影響が生じる懸念があります。受注に関するリスクとしては、イベントの延期や自粛が長期化した場合、当社グループの新製品や新技術発表の場が失われ、新規案件獲得が想定どおり進まない可能性があります。また、顧客企業の収益が悪化し、経費支出の抑制や新規投資判断の先送りが顕著となった場合、当社グループの製品・サービスの販売が想定どおり進まない可能性があります。

当社グループは、これらの影響を最小限のものとするべく、新しい技術や仕組みを積極的に取り入れ、ウィズコロナ時代に即した臨機応変な対応を行ってまいります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の悪化を背景に設備投資は減少傾向にあり、内外における新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるものの、経済活動が再開するもとの、景気は持ち直しております。

当社グループを取り巻く事業環境については、国内ゲーム市場において、巣ごもりによる需要増加の影響もあり、スマートフォンゲームは堅調に推移したものの、一部のアプリに人気集中する傾向が続いております。家庭用ゲームは年末に発売される新型ゲーム機が大きな話題となっており、今後の市場拡大が見込まれております。また、新型コロナウイルス感染症拡大対策としてイベント自粛やテレワーク導入が進むなか、インターネット上で動画を活用する技術・サービスへの需要は着実に増加しているものの、企業収益の見通し悪化により、新規投資やサービス導入の判断を先送りされるケースが生じております。

これらの状況下、当社グループは、今後成長が見込める事業、市場を見据えた研究開発体制を整備し、事業基盤の拡大、グループシナジーの創出に注力いたしました。

当連結会計年度の業績は、売上高2,349,739千円（前期比31.7%増）、営業利益457,180千円（前期比24.0%増）、経常利益457,894千円（前期比23.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益373,748千円（前期比44.1%増）となりました。

セグメント毎の経営成績は、次のとおりであります。

なお、これまで、当社グループは、ミドルウェア事業の単一セグメントで事業展開しておりましたが、顧客・マーケットを総合的に勘案し、当連結会計年度より報告セグメントの区分を行っております。

##### （ゲーム事業）

当社製ミドルウェア「CRIWARE（シーアールアイウェア）」のライセンス売上は、巣ごもり需要もありスマートフォン向けが好調に推移するとともに、海外向けも旺盛なコンテンツ受託ニーズを取り込み大きく伸ばいたしました。株式会社ウェブテクノロジーは画像最適化ソリューションを中心に堅調に推移いたしました。なお、株式会社ツーフାଇブ及び株式会社アールフォース・エンターテインメントの損益計算書を、それぞれ第1四半期及び第4四半期より新たに連結しております。当セグメントの売上高は1,708,217千円（前期比47.7%増）、セグメント利益は432,322千円（前期比24.9%増）となりました。

##### （エンタープライズ事業）

組込み分野は、ネットワーク組込みシステムの大型案件や音響補正ソリューションの販売が好調に推移いたしました。新規分野は、Web動画ソリューション及び動画向けソリューションが好調に推移いたしました。一方、医療・ヘルスケア分野は、新型コロナウイルス感染症の影響を吸収しきれず、売上の大半が次期へスライドいたしました。当セグメントの売上高は641,522千円（前期比2.2%増）、セグメント利益は24,858千円（前期比11.4%増）となりました。

##### 財政状態の状況

##### （資産の部）

当連結会計年度末の資産の部は、前連結会計年度末に比べて839,419千円増加し、5,236,711千円となりました。これは主に、「現金及び預金」の増加（前連結会計年度末に比べて455,525千円の増加）、「売掛金」の増加（前連結会計年度末に比べて63,936千円の増加）及び「ソフトウェア」の増加（前連結会計年度末に比べて63,153千円の増加）によるものであります。

##### （負債の部）

当連結会計年度末の負債の部は、前連結会計年度末に比べて144,045千円減少し、1,555,511千円となりました。これは主に、「転換社債型新株予約権付社債」の減少（前連結会計年度末に比べて310,000千円の減少）があった一方、「買掛金」の増加（前連結会計年度末に比べて73,856千円の増加）及び「その他流動負債」の増加（前連結会計年度末に比べて58,023千円の増加）によるものであります。

##### （純資産の部）

当連結会計年度末の純資産の部は、前連結会計年度末に比べて983,464千円増加し、3,681,200千円となりまし

た。これは主に、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の普通株式への転換及び新株予約権の行使による「資本金」及び「資本準備金」の増加（前連結会計年度末に比べてそれぞれ278,081千円の増加）並びに「親会社株主に帰属する当期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加（前連結会計年度末に比べて373,748千円の増加）によるものであります。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて458,171千円増加し、3,349,968千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果得た資金は445,642千円（前連結会計年度は118,898千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上496,569千円の資金の増加要因があった一方、法人税等の納付161,455千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動により使用した資金は133,102千円（前連結会計年度は59,867千円の支出）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出94,874千円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出40,966千円の資金の減少要因があった一方、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入18,518千円の資金の増加要因があったことによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果得た資金は146,602千円（前連結会計年度は114,396千円の獲得）となりました。これは主に、短期借入金の減少額105,332千円の資金の減少要因があった一方、新株予約権の行使による株式の発行による収入243,356千円の資金の増加要因があったことによるものであります。

#### 生産、受注及び販売の実績

当社グループは、「ミドルウェア事業」の単一セグメントでありましたが、新たに連結子会社が加わったことから事業区分及び事業活動の実態を適切に表すとともに、事業内容を明瞭に表示する目的で、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を「ゲーム事業」「エンタープライズ事業」に変更しております。また、当社グループは、ミドルウェア使用許諾及びサポートによる売上が主であります。生産、受注という概念と馴染まないため、下記の表には受託売上について、記載しております。

##### a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績を分野ごとに示すと、次のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円) (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	前年同期比(%)
ゲーム事業	468,507	+ 3,176.7
エンタープライズ事業	307,987	18.0
合計	776,495	+ 99.2

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 当連結会計年度において、生産実績に著しい変動がありました。これは、ゲーム事業におきまして株式会社ソーファイブ及び株式会社アールフォース・エンターテインメントを連結子会社化したことによるものであります。

b. 受注状況

当連結会計年度の受注状況を分野ごとに示すと、次のとおりであります。

区分	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ゲーム事業	493,892	+ 2,599.2	29,385	+ 634.6
エンタープライズ事業	421,993	+ 34.1	138,535	+ 464.8
合計	915,886	+ 175.0	167,920	+ 488.6

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当連結会計年度において、受注状況に著しい変動がありました。これは、ゲーム事業におきまして株式会社ツーフাইブ及び株式会社アールフォース・エンターテインメントを連結子会社化したことによるものであります。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績を分野ごとに示すと、次のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円) (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	前年同期比(%)
ゲーム事業	1,708,217	+ 47.7
エンタープライズ事業	641,522	+ 2.2
合計	2,349,739	+ 31.7

(注) 1. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)		当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社セガ	195,762	11.0	160,362	6.8

2020年4月1日付で株式会社セガゲームスから株式会社セガに商号を変更しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般的に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者により、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されております。これらの見積りについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、これらと異なることがあります。この連結財務諸表の作成にあたる重要な会計方針につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 「当連結会計年度の経営成績等」及び「セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況」に関する認識及び分析・検討内容

(売上高)

ゲーム事業においては、国内・海外ともに売上を大きく積み上げたことに加え、ツーフাইブ社及びアールフォース・エンターテインメント社の連結効果等により前期比増収を達成し、またエンタープライズ事業においては、ネットワーク組み込みシステムの大型案件等が好調に推移したことにより、売上高は2,349,739千円（前連結会計年度比31.7%増）となりました。

(売上原価、売上総利益)

売上原価は947,909千円（前連結会計年度比48.9%増）となりました。これは主に、ゲーム事業における連結子会社の増加により労務費及び外注費が増加したことによるものであります。この結果、売上総利益は1,401,829千円（前連結会計年度比22.2%増）となりました。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

販売費及び一般管理費は944,649千円（前連結会計年度比21.3%増）となりました。これは主に、ゲーム事業における連結子会社の増加により人件費が増加したことによるものであります。なお、当連結会計年度における研究開発費は71,254千円（前連結会計年度比21.5%減）となりました。この結果、営業利益は457,180千円（前連結会計年度比24.0%増）となりました。

(営業外収益、営業外費用及び経常利益)

営業外収益は、主として受取利息及び受取配当金等により10,245千円（前連結会計年度比2.8%減）となり、営業外費用は、主として為替差損及び事務所移転費用により9,532千円（前連結会計年度比28.2%増）となり、この結果、経常利益は457,894千円（前連結会計年度比23.2%増）となりました。

(特別利益及び税金等調整前当期純利益)

特別利益は、負ののれん発生益38,675千円（前連結会計年度は該当なし）となり、この結果、税金等調整前当期純利益は496,569千円（前連結会計年度比33.6%増）となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

税金費用は、122,803千円（前連結会計年度比8.6%増）となり、この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は373,748千円（前連結会計年度比44.1%増）となりました。

b. 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループにおける中長期的な事業拡大と企業価値向上のために必要な資金需要の主なものは、人件費等の原価、販売費及び一般管理費の営業費用及び研究開発費であり、自己資金により賄っております。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの主な増減要因につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」欄に記載のとおりであります。

c. 経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、中長期的な事業拡大と企業価値向上をめざしており、売上高の持続的な成長と20%程度の営業利益率を重要な経営指標としております。

当連結会計年度は、売上高2,349,739千円（前期比31.7%増）、営業利益457,180千円（営業利益率19.5%）となりました。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

##### (1) 資本・業務提携契約

契約相手	Terafence Ltd.
契約書名	(1) Investment Agreement (2) Collaboration Agreement
契約締結日	2018年3月27日
契約内容	(1) 資本提携 US\$2,000,000の出資によりTerafenceの株式を取得(株式数60,902株) (2) 業務提携 当社の動画処理技術とTerafenceの持つサイバーセキュリティ向けゲーム制御技術を活用したIoTセキュリティ関連の業務提携

##### (2) 販売等の契約

契約相手	上海希艾維信息科技有限公司
契約書名	CRIWARE 再販売契約書
契約締結日	2019年6月1日
契約内容	当社が提供するソフトウェアに関するノウハウの提供及び再販売に係る契約

## 5 【研究開発活動】

研究開発をベースに許諾製品を開発することが当社の主要ビジネスであるため、新技術の検証や研究には柔軟に工数を割りあてております。

### (1) 研究開発方針について

音声・映像・画像分野の最新技術動向を把握しつつ、実際の開発環境やユーザー環境に適用できるようなテーマの研究開発を行っております。

また、顧客や見込み顧客と接する中で、必要とされる技術、必要とされそうな技術テーマについて取り組んでおります。

### (2) 研究開発分野について

音声・映像・画像にかかわる技術を核として、ゲーム向けやウェブブラウザ向け、IoT関連向け等の研究開発を進めております。

既に提供中のツール・ミドルウェアについても、新規プラットフォームの対応や、機種固有機能の活用などの研究開発を行っております。

### (3) 研究開発体制について

各開発チームが担当する顧客分野において、必要とされる技術を中心に最高技術責任者が方針を決定し、研究開発を進めております。開発チーム間での情報共有を行い、研究成果は他分野への活用も模索いたします。製品化の目的が立った段階で、経営判断を行い製品開発にシフトいたします。また、研究開発の後に顧客との受託契約を締結し、受託開発に移行する場合があります。

### (4) 研究開発活動の主な成果

#### ゲーム事業

ゲーム分野においては、据置ゲーム機の新機種となる「PlayStation 5」「XBOX Series X|S」にミドルウェア対応を完了いたしました。また、音声解析リップシンクミドルウェア「CRI ADX LipSync」はゲームソフトやバーチャルキャラクターイベントなどに採用されております。

ウェブテクノロジーの製品分野においては、画像減色・圧縮ツール「OPTiX ImageStudio」は、Windowsに加えMacにも対応した新バージョンをリリースいたしました。2Dアニメーション作成ツール「OPTiX SpriteStudio」は、より多彩な表現を可能にするカスタムシェーダーやアニメーションシーケンス機能をサポートいたしました。画像軽量化ソリューション「OPTiX SmartJPEG」は、WebPアニメーション対応、画質向上などの機能強化を行い、導入先も広がっております。

#### エンタープライズ事業

組込み分野においては、クリエイティブUIミドルウェアのAeropointをルネサスエレクトロニクス株式会社製RXマイコンに最適化し、動画再生も可能にした「Aeropoint GUI for RX」を発表いたしました。

新規分野においては、Web動画ソリューションLiveAct PROを中核技術とした「スマート入社社」「スマート授業」「デジタル展示会プラットフォーム DXExpo」を発表し、世の中の変化に合わせた製品を素早く展開しております。

なお、当連結会計年度の研究開発費総額は、71,254千円であります。



## 第3 【設備の状況】

## 1 【設備投資等の概要】

重要な設備投資はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

## (1) 提出会社

2020年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額			従業員数 (人)
			建物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都渋谷区)	ゲーム事業	本社事務所 開発設備		2,905	2,905	45
	エンタープライズ 事業	本社事務所 開発設備		1,002	1,002	39
	全社（共通）	本社事務所	16,102	4,471	20,573	12

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。  
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
3. 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料又はリース料(千円)
全社（共通）	本社事務所	83,535

## (2) 国内子会社

2020年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額			従業員数 (人)
				建物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	合計 (千円)	
株式会社ウェブ テクノロジー	本社 (東京都渋谷区)	ゲーム事業	本社事務所		0	0	23
株式会社ツ ファイブ	本社 (東京都豊島区)	ゲーム事業	本社事務所	4,860	600	5,460	12
株式会社アール フォース・エン ターテインメン ト	本社 (東京都渋谷区)	ゲーム事業	本社事務所	9,977	15,735	25,712	52

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。  
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
3. 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

会社名	事務所 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	年間賃借料又はリース料(千円)
株式会社ウェブ テクノロジー	本社 (東京都渋谷区)	ゲーム事業	本社事務所	9,586
株式会社ツ ファイブ	本社 (東京都豊島区)	ゲーム事業	本社事務所	(注) 9,894
株式会社アール フォース・エン ターテインメン ト	本社 (東京都渋谷区)	ゲーム事業	本社事務所	(注) 13,641

(注) 上記年間賃借料又はリース料の期間は、株式会社ツファイブは11ヶ月、株式会社アールフォース・エンターテインメントは3ヶ月であります。

(3) 在外子会社

重要性がないため、記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年12月18日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,518,350	5,553,150	東京証券取引所 (マザーズ)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
計	5,518,350	5,553,150		

- (注) 1. 2020年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権(ストック・オプション)の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。
2. 2020年10月1日から2020年11月30日までの間に、新株予約権の行使により発行済株式数が34,800株増加しております。

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

## 第2回新株予約権(2013年10月30日臨時株主総会決議)

区分	事業年度末現在 (2020年9月30日)	提出日の前月末現在 (2020年11月30日)
新株予約権の数(個)	77	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)(注)1、3	46,200	
新株予約権の行使時の払込金額(円)(注)2、3	259	同左
新株予約権の行使期間	自 2015年11月1日 至 2020年10月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)(注)3	発行価格 259 資本組入額 130	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役、従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。 新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。 新株予約権者は、当社株式が日本国内の証券取引所に上場された日及び権利行使期間の開始日のいずれか遅い方の日以後において新株予約権を行使することができる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、担保権を設定することができない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が吸収合併、新設合併、吸収分割、新設分割、株式交換若しくは株式移転を行う場合又はその他やむを得ない事由が生じた場合には、新株予約権の目的となる株式の数は、合理的な範囲で取締役会決議により調整されるものとする。

2. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により1株当たりの払込金額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株を発行する場合又は自己株式を処分する場合(新株予約権の行使によるものを除く。)は、次の算式により1株当たりの払込金額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \frac{\text{調整前払込金額} \times \left( \text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込金額}}{\text{新規発行前の株価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 2014年7月10日開催の当社臨時取締役会決議により、2014年8月6日付で普通株式1株につき200株の分割を、また2015年2月12日開催の当社取締役会決議により、2015年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

4. 2014年12月16日開催の当社株主総会決議により、2013年10月30日臨時株主総会決議により発行した新株予約権の行使期間を「自 2015年11月1日 至 2020年10月31日」に更正しております。

第3回新株予約権(2015年11月12日取締役会決議)

区分	事業年度末現在 (2020年9月30日)	提出日の前月末現在 (2020年11月30日)
新株予約権の数(個)	1,060	970
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)(注)1	106,000	97,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)(注)2	1,332	同左
新株予約権の行使期間	自 2016年1月16日 至 2023年1月15日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,361 資本組入額 681	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社が金融商品取引法に基づき提出した有価証券報告書に記載された2016年9月期(2015年10月1日から2016年9月30日まで)、2017年9月期(2016年10月1日から2017年9月30日まで)又は2018年9月期(2017年10月1日から2018年9月30日まで)の連結損益計算書における営業利益の額のいずれかが370百万円を超過した場合、新株予約権者に割り当てられた新株予約権を権利行使することができる。また、当社の連結範囲に変動があり、当社において作成される損益計算書が個別損益計算書のみとなった場合は、上記「連結損益計算書」は「個別損益計算書」と読みかえるものとする。</p>	同左

区分	事業年度末現在 (2020年9月30日)	提出日の前月末現在 (2020年11月30日)
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社又は当社子会社を退任又は退職した場合には、未行使の新株予約権を行使できなくなるものとする。ただし、新株予約権者が当社又は当社子会社側の都合による退職により権利行使資格を喪失した場合で、当社が諸般の事情を考慮の上、当該新株予約権者による新株予約権の行使を書面により承認した場合は、当該新株予約権者は、権利行使資格喪失の日より1年間を経過する日と新株予約権の権利行使期間満了日のいずれか早い方の日に至るまでに限り、権利行使資格を喪失しなければ行使できるはずであった新株予約権を行使することができる。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>1個の新株予約権の一部行使は認めない。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、担保権を設定することができない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1. 当社が株式の分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下同じ。)又は株式の併合を行う場合は、次の算式により新株予約権の目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、かかる調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、上記のほか、割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて新株予約権の目的となる株式の数の調整をすることが適切な場合には、当社は、合理的な範囲で新株予約権の目的となる株式の数の調整をすることができるものとする。

2. 当社が、株式の分割又は株式の併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

さらに、上記のほか、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

3. 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約書若しくは株式移転計画書承認の議案、又は当社が分割会社となる会社分割についての吸収分割契約書若しくは新設分割計画書承認の議案について当社株主総会の承認(株主総会による承認を行わない場合には取締役会決議)がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、新株予約権の全部を無償で取得することができる。

新株予約権者が権利行使をする前に、「新株予約権の行使の条件」に定める規定により新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、新株予約権を無償で取得するものとする。

新株予約権者が新株予約権の放棄を申し出た場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、新株予約権を無償で取得するものとする。

#### 4. 組織再編行為時の新株予約権の取扱い

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- ( ) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数それぞれをそれぞれ交付する。
- ( ) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- ( ) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件を勘案の上、(注)1に準じて決定する。
- ( ) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案の上、上記(注)2で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、(注)1に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。
- ( ) 新株予約権を行使することができる期間  
上記「新株予約権の行使期間」に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記「新株予約権の行使期間」に定める行使期間の末日までとする。
- ( ) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
- ( ) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
- ( ) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記( )記載の資本金等増加限度額から、上記( )に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- ( ) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- ( ) その他新株予約権の行使の条件  
上表「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。
- ( ) 新株予約権の取得事由及び条件  
(注)3に準じて決定する。
- ( ) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

## 第5回新株予約権(2018年1月18日取締役会決議)

区分	事業年度末現在 (2020年9月30日)	提出日の前月末現在 (2020年11月30日)
新株予約権の数(個)	3,244	同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)(注)1	324,400	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)(注)2	2,029	同左
新株予約権の行使期間	自 2020年12月1日 至 2026年2月14日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,057 資本組入額 1,029	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社が金融商品取引法に基づき提出した有価証券報告書に記載された2020年9月期(2019年10月1日から2020年9月30日まで)又は2021年9月期(2020年10月1日から2021年9月30日まで)の連結損益計算書における営業利益の額のいずれかが445百万円を超過した場合に限り、新株予約権者に割り当てられた新株予約権を行使することができる。ただし、当社の連結範囲に変動があり、当社において作成される損益計算書が個別損益計算書のみとなった場合は、上記「連結損益計算書」は「個別損益計算書」と読みかえるものとする。</p>	同左



区分	事業年度末現在 (2020年9月30日)	提出日の前月末現在 (2020年11月30日)
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社又は当社子会社を退任又は退職した場合には、未行使の新株予約権を行使できなくなるものとする。ただし、新株予約権者が当社又は当社子会社側の都合による退職により権利行使資格を喪失した場合で、当社が諸般の事情を考慮の上、当該新株予約権者による新株予約権の行使を書面により承認した場合は、当該新株予約権者は、権利行使資格喪失の日より1年間を経過する日と新株予約権の権利行使期間満了日のいずれか早い方の日に至るまでに限り、権利行使資格を喪失しなければ行使できるはずであった新株予約権を行使することができる。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>1個の新株予約権の一部行使は認めない。</p> <p>その他の権利の行使の条件は、当社と新株予約権の割当てを受ける者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1. 新株予約権の目的となる株式の種類は、当社普通株式とし、新株予約権1個あたりの目的となる当社普通株式の数は、100株とする。なお、当社が株式の分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下同じ。)又は株式の併合を行う場合は、次の算式により新株予約権の目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、上記のほか、割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて新株予約権の目的となる株式の数の調整をすることが適切な場合には、当社は、合理的な範囲で新株予約権の目的となる株式の数の調整をすることができる。

なお、かかる調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。

2. 新株予約権の割当日後、当社が、株式の分割又は株式の併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権割当日後に、時価を下回る価額で新株発行又は自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額は調整され、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。ただし、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行わない。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行株式数}}$$

なお、上記の算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式数から当社が保有する自己株式数を控除した数をいうものとし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

### 3. 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約、当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画、又は当社が分割会社となる会社分割についての吸収分割契約もしくは新設分割計画について当社株主総会の承認（株主総会による承認を行わない場合には取締役会決議）がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、新株予約権の全部を無償で取得することができる。新株予約権者が権利行使をする前に、上表「新株予約権の行使の条件」に定める規定により新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、新株予約権を無償で取得するものとする。

新株予約権者が新株予約権の放棄を申し出た場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、新株予約権を無償で取得するものとする。

### 4. 組織再編行為時の新株予約権の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。交付する再編対象会社の新株予約権の数新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記(注) 1. に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記(注) 2. で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記(注) 1. に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上表「新株予約権の行使期間」に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上表「新株予約権の行使期間」に定める行使期間の末日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

(a) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

(b) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(a)記載の資本金等増加限度額から、上記(a)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

## 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

## その他新株予約権の行使の条件

上表「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。

## 新株予約権の取得事由及び条件

上記(注) 3. に準じて決定する。

その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

## 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

## 第3回無担保転換社債型新株予約権付社債(2017年6月30日取締役会決議)

区分	事業年度末現在 (2020年9月30日)	提出日の前月末現在 (2020年11月30日)
新株予約権付社債の残高(千円)	1,019,900	1,019,900
新株予約権の数(個)	40	40
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	350,000	350,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	2,914	同左
新株予約権の行使期間	自 2017年7月18日 至 2021年7月15日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,914 資本組入額 1,457	同左
新株予約権の行使の条件	各本新株予約権の一部行使はできない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	本転換社債型新株予約権の行使に際して出資される財産は、当該本転換社債型新株予約権に係る本社債とし、当該社債の価額はその払込金額と同額とする。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) (1) 当社は、本新株予約権付社債の発行後、本項(2)に掲げる各事由により当社の発行済普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合は、次に定める算式(以下「転換価額調整式」という。)をもって転換価額を調整する。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{交付株式数} \times \text{1株当たりの払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{交付株式数}}$$

(2) 転換価額調整式により転換価額の調整を行う場合及びその調整後の転換価額の適用時期については、次に定めるところによる。

本項(4) に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を新たに発行し、又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合(ただし、当社の発行した取得条項付株式、取得請求権付株式若しくは取得条項付新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。))の取得と引換えに交付する場合又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。))その他の証券若しくは権利の転換、交換若しくは行使による場合を除く。)

調整後の転換価額は、払込期日(募集に際して払込期間が設けられたときは当該払込期間の最終日とする。以下同じ。))の翌日以降又はかかる発行若しくは処分につき株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日の翌日以降これを適用する。

当社普通株式の株式分割又は当社普通株式の無償割当てにより当社普通株式を発行する場合

調整後の転換価額は、株式分割のための基準日の翌日以降又は当社普通株式の無償割当ての効力発生日の翌日以降、これを適用する。ただし、当社普通株式の無償割当てについて、当社普通株式の株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合は、その日の翌日以降これを適用する。

本項(4)に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式の交付と引換えに当社に取得され若しくは取得を請求できる証券又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権若しくは新株予約権付社債を発行(無償割当ての場合を含む。)する場合

調整後の転換価額は、発行される取得請求権付株式、新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)その他の証券又は権利(以下「取得請求権付株式等」という。)の全てが当初の条件で転換、交換又は行使され、当社普通株式が交付されたものとみなして転換価額調整式を適用して算出するものとし、当該取得請求権付株式等の払込期日(新株予約権が無償にて発行される場合は割当日)の翌日以降、又は無償割当てのための基準日がある場合はその日(基準日を定めない場合には効力発生日)の翌日以降これを適用する。

上記にかかわらず、転換、交換又は行使に対して交付される当社普通株式の対価が取得請求権付株式等が発行された時点で確定していない場合は、調整後の転換価額は、当該対価の確定時点で発行されている取得請求権付株式等の全てが当該対価の確定時点の条件で転換、交換又は行使され当社普通株式が交付されたものとみなして転換価額調整式を準用して算出するものとし、当該対価が確定した日の翌日以降これを適用する。

本号乃至の各取引において、基準日が設定され、かつ、効力の発生が当該基準日以降の株主総会、取締役会その他当社の機関の承認を条件としているときには、調整後の転換価額は、当該承認があった日の翌日以降これを適用するものとする。

この場合において、当該基準日の翌日から当該取引の承認があった日までに本新株予約権を行使した新株予約権者に対しては、次の算出方法により当社普通株式を交付する。この場合、1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。

$$\text{株式数} = \frac{(\text{調整前転換価額} - \text{調整後転換価額}) \times \text{調整前転換価額により当該期間内に交付された株式数}}{\text{調整後転換価額}}$$

- (3) 転換価額調整式により算出された調整後の転換価額と調整前の転換価額との差額が1円未満に留まる限りは、転換価額の調整はこれを行わない。ただし、その後転換価額の調整を必要とする事由が発生し、転換価額を調整する場合には、転換価額調整式中の調整前転換価額に代えて調整前転換価額からこの差額を差し引いた額を使用する。
- (4) 転換価額調整式の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。転換価額調整式で使用する時価は、調整後の転換価額が初めて適用される日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の毎日の終値の平均値(終値のない日数を除く。気配値表示を含む。)とする。この場合、平均値の計算は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。転換価額調整式で使用する既発行株式数は、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日、また、かかる基準日がない場合は、調整後の転換価額を初めて適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式数から、当該日において当社の保有する当社普通株式を控除した数とする。
- (5) 本項(2)の転換価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、当社は、本社債権者と協議の上、その承認を得て、必要な転換価額の調整を行う。  
株式の併合、合併、会社法第762条第1項に定められた新設分割、会社法第757条に定められた吸収分割、株式交換又は株式移転のために転換価額の調整を必要とするとき。  
その他当社の発行済普通株式数の変更又は変更の可能性が生じる事由の発生により転換価額の調整を必要とするとき。  
当社普通株式の株主に対する他の種類の株式の無償割当てのために転換価額の調整を必要とするとき。  
転換価額を調整すべき複数の事由が相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の転換価額の算出に当たり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年10月1日～ 2016年9月30日 (注) 1	597,218	4,915,418	221,903	420,753	221,903	410,753
2016年10月1日～ 2017年9月30日 (注) 2	16,200	4,931,618	2,097	422,851	2,097	412,851
2017年10月1日～ 2018年9月30日 (注) 3	30,600	4,962,218	3,962	426,814	3,962	416,814
2018年10月1日～ 2019年9月30日 (注) 4	111,700	5,073,918	53,531	480,345	53,531	470,345
2019年10月1日～ 2020年9月30日 (注) 5	444,432	5,518,350	278,081	758,426	278,081	748,426

- (注) 1. 転換社債型新株予約権付社債の普通株式への転換により発行済株式数が196,418株、資本金及び資本準備金がそれぞれ170,000千円増加しており、また、新株予約権の行使により発行済株式数が400,800株、資本金及び資本準備金がそれぞれ51,903千円増加しております。
2. 新株予約権の行使により発行済株式数が16,200株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,097千円増加しております。
3. 新株予約権の行使により発行済株式数が30,600株、資本金及び資本準備金がそれぞれ3,962千円増加しております。
4. 新株予約権の行使により発行済株式数が111,700株、資本金及び資本準備金がそれぞれ53,531千円増加しております。
5. 転換社債型新株予約権付社債の普通株式への転換により発行済株式数が232,732株、資本金及び資本準備金がそれぞれ155,000千円増加しており、また、新株予約権の行使により発行済株式数が211,700株、資本金及び資本準備金がそれぞれ123,081千円増加しております。
6. 2020年10月1日から2020年11月30日までの間に、新株予約権の行使により発行済株式数が34,800株、資本金及び資本準備金がそれぞれ9,465千円増加しております。

## (5) 【所有者別状況】

2020年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		4	25	33	27	12	3,687	3,788	
所有株式数(単元)		3,007	1,910	9,149	3,395	23	37,665	55,149	3,450
所有株式数の割合(%)		5.452	3.463	16.589	6.156	0.041	68.296	100.000	

(注) 自己株式 121,315 株は、「個人その他」に 1,213単元、「単元未満株式の状況」に 15株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社セガグループ	東京都品川区西品川1-1-1	640,000	11.86
C R I ・ミドルウェア従業員持株会	東京都渋谷区渋谷1-7-7	542,600	10.05
押見 正雄	東京都世田谷区	392,800	7.28
ウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合	東京都港区愛宕2-5-1	232,750	4.31
古川 憲司	神奈川県川崎市麻生区	232,000	4.30
株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1-8-12	159,600	2.96
松下 操	神奈川県川崎市麻生区	141,800	2.63
鈴木 久司	神奈川県横浜市中区	120,000	2.22
平崎 泰司	東京都八王子市	100,200	1.86
CREDIT SUISSE AG, SINGAPORE BRANCH - FIRM EQUIY (POETS) (常任代理人 クレディ・スイス証券株式会社)	1 RAFFLES LINK, #03/# 04-01 SOUTH LOBBY, SI NGAPORE 039393 (東京都港区六本木1-6-1)	89,700	1.66
計		2,651,450	49.13

(注) 上記のほか、自己株式を121,315株保有しております。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 121,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,393,600	53,936	
単元未満株式	普通株式 3,450		
発行済株式総数	5,518,350		
総株主の議決権		53,936	

## 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社CRI・ミドル ウェア	東京都渋谷区渋谷1- 7-7	121,300		121,300	2.20
計		121,300		121,300	2.20

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

## (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	83	127
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(第三者割当による自己株式の処分)	37,800	61,208		
保有自己株式数	121,315		121,315	

(注) 当事業年度における「その他(第三者割当による自己株式の処分)」は、溝口功氏、横山裕一氏、本田信行氏を割当先とする第三者割当による自己株式の処分であります。



### 3 【配当政策】

当社の利益配分につきましては、業績の推移を見据え、将来の事業の発展と経営基盤の強化のための内部留保に意を用いつつ、経営成績や配当性向等を総合的に勘案し、安定的かつ継続的な配当を維持することを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議をもって剰余金の配当を行うことができる旨及び期末配当の基準日を毎年9月30日、中間配当の基準日を毎年3月31日とする旨を定款で定めております。

しかしながら、当社は、成長過程にあり、今後の事業発展及び経営基盤強化といった、内部留保の充実を図るため配当を行っておりません。

なお、当事業年度の剰余金の配当についても無配としております。内部留保資金につきましては、経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化及び事業の継続的な拡大発展を実現させるための資金として、有効に活用していく所存であります。

今後の利益還元につきましては、経営成績を勘案しながら、適宜検討していく予定であります。

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「顧客」、「株主」、「社員」、「社会」といったあらゆるステークホルダーを重視しておりますが、その中でも、継続的に利益を伴った成長を遂げ、株主価値を拡大することが重要な経営課題の一つと認識しております。そのために、法令を遵守し、経営及び業務の全般にわたって透明性、客観性を確保するよう、取締役会、監査等委員会等の監督、監査機能の強化に努めるとともに、コーポレート・ガバナンスに関する法改正への対応やより一層の投資家保護・株主重視の施策を図る所存であります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

#### イ．企業統治の体制の概要

当社は、取締役会の監督機能とコーポレート・ガバナンス体制を一層強化するため、2017年12月21日開催の当社第17回定時株主総会の承認をもって、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。なお、当社が設置している会社の主要な機関は、以下のとおりです。

#### (取締役会)

取締役会は、監査等委員でない取締役6名(うち社外取締役2名)、監査等委員である取締役3名(全て社外取締役)の計9名で構成され、毎月1回の定時取締役会の他、必要により臨時取締役会を開催しております。当社経営の意思決定機関として、監査等委員でない取締役の職務執行の監督、及び法令・定款・取締役会規程に定められた事項の決議並びに報告をしております。

取締役の氏名については、(2)〔役員の状況〕に記載しており、議長は代表取締役社長が務めております。

#### (監査等委員会)

監査等委員会は、監査等委員である取締役3名(全て社外取締役)で構成され、毎月1回の定時委員会の他、必要により臨時委員会を開催しております。各人が有する財務・会計、法務などの専門的知見や幅広い経験を活かして、独立した立場から取締役の職務執行の監査等を行います。また、内部監査グループ及び会計監査人と情報交換等の連携により、業務監査及び会計監査が有効に実施されるよう努めております。

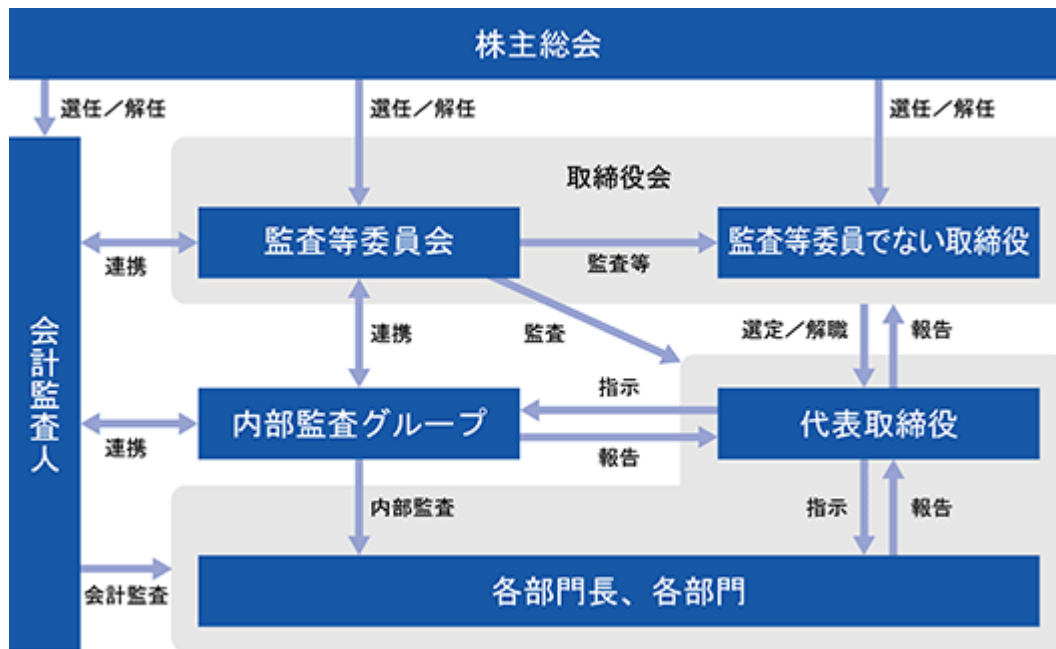
監査等委員の氏名については、(2)〔役員の状況〕に記載しており、議長は片山勝博氏が務めております。

#### (内部監査グループ)

当社は代表取締役社長直轄の内部監査グループを設置しております。内部監査グループは、基本方針に基づいて整備された内部統制システムが有効に機能しているか確認し、その結果について被監査部門へ報告及び適切な指導をするとともに、代表取締役社長及び監査等委員会へ報告しております。また、内部監査担当者として監査等委員、会計監査人が監査を有効かつ効率的に進めるため、適宜情報交換を行っており、効率的な監査に努めております。

ロ．コーポレート・ガバナンス体制

当社のコーポレート・ガバナンスの状況を図示すると以下のとおりであります。



企業統治に関するその他の事項

イ．内部統制システムの整備状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、業務の適正を確保するための体制として、「内部統制システムに関する基本方針」を定めており、現在その基本方針に基づき内部統制システムの運用を行っております。

内部統制システムの概要は以下のとおりであります。

）当社及び子会社の取締役及び社員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社及び子会社は、取締役及び社員が職務を執行する上で、法令及び定款に適合し、かつ企業としての社会的責任を果たすことを最重要と位置づけております。取締役会等での議論を通じて、全取締役のコンプライアンスに対する意識を高め、それに基づいて職務の執行を徹底しております。

当社の取締役会は取締役会規程に基づいて運営し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に業務執行を監督しております。また、監査等委員である取締役も出席し監査等委員でない取締役の職務の執行の適法性を監査しております。

一方、法令等遵守に関する規程の整備を進め、社員の法令等の遵守意識の維持・向上を図っております。

また、内部監査グループは、基本方針に基づいて整備された内部統制システムが有効に機能しているか確認し、その結果について被監査部門へ報告及び適切な指導をするとともに、代表取締役社長及び監査等委員会へ報告しております。子会社に対しても内部監査規程、関係会社管理規程に基づき、定期的に内部監査を実施し、同様の手続きを行う体制としております。

）当社及び子会社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社及び子会社は、取締役会議事録を作成し、保管する仕組みを構築しております。また、当社の取締役の職務の執行に係る文書その他の情報については、文書管理規程等に基づいて管理し、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直しを行っております。これらの事務手続きについては、コーポレート本部が所管し、運用状況の検証、見直しの経過など、定期的に取締役会に報告しております。

）当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社及び子会社は、損失の危険の管理について、リスク管理シートを定期的に見直し、周知・徹底することにより、社内での意識づけを図っております。また、内部監査グループは、内部監査規程に基づいて監査実施項目及び方法を検討した上で監査計画を立案し、計画に基づく監査を実施しております。内部監査グループ及び監査等委員会の監査により、法令又は定款に違反する事項、あるいはその他の事由に基づき損失の危険のある業務執行行為が発見された場合は、代表取締役社長に直ちに報告することとしております。同様に、当社の内部監査グループ及び監査等委員会は、関係会社管理規程に基づいて子会社に対する監査を実施し、監査により、法令又は定款に違反する事項、あるいはその他の事由に基づき損失の危険のある業務執行行為が発見された場合は、当社の代表取締役社長に直ちに報告し、子会社に対して指導又は勧告を行う体制としております。

）当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社の取締役会は、毎月1回定時に開催するほか、緊急を要する場合には臨時に開催し、経営全般の意思決定機関として機動的に運営しております。業務執行の監督については、取締役会規程により定められている事項に関し、すべて取締役会に付議することとし、その際には議題に関する十分な資料が全役員に配付され、経営判断の原則に基づき充実した議論が行われる体制をとっております。日常の業務遂行については、職務権限基準表、業務分掌規程等に基づき権限の委譲が行われ、各責任者が意思決定ルールに則り業務を遂行することとしております。なお、業務を効率的に行うために、業務システムの合理化やIT化を推進するほか、情報システム管理規程に基づき、総合的な情報の運用・管理を徹底しております。また、子会社の取締役より、関係会社管理規程に基づき、営業成績、財務状況その他の重要な情報について毎月報告を受ける体制をとっており、必要に応じ、当社の取締役会にて審議を行っております。

）当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社及び子会社からなる企業集団のリスク情報の有無を確認するために、当社の子会社の管理を担当する経営企画室は、関係会社管理規程に基づいて子会社の状況に応じて必要な管理を行っております。事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行うとともに、各社の財産並びに損益に多大な影響を及ぼすと判断する重要案件については、当社取締役会の承認を受けるものとしております。

）監査等委員会がその職務を補助すべき社員を置くことを求めた場合における当該社員に関する事項、その社員の取締役からの独立性に関する事項及び監査等委員会の職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査等委員会の職務を補助する社員の独立性を確保するため、その社員の人事及び独立性、実効性については、監査等委員でない取締役と監査等委員である取締役にて意見交換を行い、適切に対応するものとします。

）当社及び子会社の取締役及び社員が監査等委員会に報告をするための体制

当社及び子会社の取締役及び社員は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、内部通報制度運用規程に基づき、監査等委員会に報告する体制をとっております。また、監査等委員である取締役は、重要な意思決定のプロセス及び業務の執行状況を把握するため、取締役会に出席するほか、必要に応じてその他の重要な会議に出席するとともに、業務執行に関する稟議書等の重要な文書を閲覧し、監査等委員でない取締役及び社員にその説明を求めることとしております。当社及び子会社の取締役及び社員は、監査等委員会が報告を要請した事項については、速やかに報告を行っております。なお、内部通報制度運用規程においては、当社及び当社役職員が、通報者に対して、当該報告をしたことを理由とする不利益な取扱を行うことを禁止し、その保護を図っております。

）その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役及び社員は監査等委員会の監査に対する理解を深め、監査等委員会の監査の環境を整備するよう努めております。

代表取締役社長は、監査等委員会が内部監査グループとの適切な意思疎通及び効果的な監査業務を実施するための体制を構築しております。

また、監査等委員会は毎月1回定時に定例委員会を開催するほか、必要に応じ臨時に開催し、決議、協議、報告及び情報交換を行うとともに、内部監査グループから監査結果の報告を、また、会計監査人から会計監査に関する報告を受け、意見交換を行っております。加えて、監査等委員会は定期的に子会社の監査役等との会議を開催し、各社の監査役等から監査に関する報告を受け、意見交換を行っております。監査等委員である取締役がその職務の執行について生ずる費用の前払い等を請求した場合は、当該監査等委員である取締役の職務に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用の前払い等の処理をするものとしております。

）反社会的勢力による被害を防止するための体制

当社は、反社会的勢力に対して、反社会的勢力排除規程に基づき、以下のとおりの対応を行っております。

- (1) 反社会的勢力を排除するための社内体制の整備、外部専門機関との連携を行っております。
- (2) 反社会的勢力による不当要求が発生した場合の対応を統括する部署を整備し、当該部署が情報の一元管理・蓄積、遮断のための取組支援、研修活動の実施、対応マニュアルの整備、外部専門機関との連携等を行っております。
- (3) 契約書に暴力団排除条項を導入しております。
- (4) 取引先の審査等を行うとともに、暴力追放運動推進センターや他企業等の情報を活用しております。

）財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、財務報告の信頼性を確保するための体制を構築し、その体制の整備・運用状況を定期的に評価し、維持、改善に努めるとともに、金融商品取引法及び関係法令との適合性を確保しております。

#### ロ．責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

#### リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は以下のように、リスクの種類ごとに専門体制を敷き対策を講じております。

##### イ．災害等のリスクから会社資産や社員を守る観点

地震、台風などの自然災害や、火事などの災害から会社資産や社員の安全を確保するため、コーポレート本部が中心となって、体制を作っております。特に、オフィス内の防火管理においては、防火管理者を中心に避難・誘導・消火などの役割が決められ、定期的に避難訓練を実施しております。

また、非常時の緊急連絡や安否確認については、Webシステムを活用し24時間連絡・確認が取れる体制にしております。

##### ロ．サイバーテロや社内の事故等からソフトウェア資産や機密情報を守る観点

社内に「情報セキュリティ委員会」を設け、ソフトウェアや機密情報の保持について検討し、対策を実施しております。

システム面において、具体的には、外部からのサイバー攻撃やウィルス類の侵入を防ぐため、最新のファイアーウォール(特殊なルーター)を設置し、悪意ある攻撃はもちろん、社員が誤ってアクセスしてしまった場合に侵入するウィルス類からの攻撃を防いでおります。

また、前記イ．にも関連しますが、社内サーバーのデータを、社内と遠隔地に定期的にバックアップし、事故が起こった際でも、最長7日間以内にリカバーできるような体制を採っております。

##### ハ．外部からの訴訟リスクを回避する観点

当社はBtoBビジネスを基本としており、不特定の個人から訴訟を受ける可能性は少ないと考えております。

法人との契約におきましては、原則として賠償責任条項において免責される旨の条項を入れております。それは、ソフトウェアにおいて、第三者の権利侵害などを完全に回避することは不可能であるという業界の基本的考え方によるものです。

## 二．社内文書など社内の資産や機密を保持する観点

システム上のファイルなどについては前記ロ．のとおりですが、紙媒体など有形物の管理には、鍵付きのキャビネットを使用し、担当者が毎日施錠して帰宅するルールとしております。

## ホ．現金や預金など金銭の事故を防ぐ観点

現金を極力扱わない仕組みにしております。顧客や協力会社とは原則銀行振込みでの取引としており、また社員の立て替え精算も給与システムを通じての振込みとしております。一部小口現金は社内にはありますが、二重の施錠で管理しております。また、銀行印の管理も同様に厳重管理しております。預金の処理は、定められた担当者が管理者のチェックの下で行っており、厳格なセキュリティのエレクトロニックバンキングシステムを使用しております。

なお、当該事業年度においては、新型コロナウイルス対策として、役員及び従業員等の感染防止のための諸施策を決定し、実施しております。

### 取締役の定数

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)は7名以内とし、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、資本政策の機動性の確保と株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当(中間配当、期末配当)等を行うことができる旨を定款で定めております。

### 自己株式取得の決定機関

当社は、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行のため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会決議による自己株式の取得を可能とする旨を定款で定めております。

### 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決議を行う旨を定款で定めております。

### 取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)との責任限定契約について

当社は、会社法第427条第1項の定めに基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。

## (2) 【役員の状況】

## 役員一覧

男性 9名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	押見 正雄	1963年2月15日生	1987年4月 株式会社CSK総合研究所 入社 1997年10月 同社 マルチメディア研究室 マネージャー 2002年8月 当社へ出向 2003年4月 当社取締役 2007年4月 当社専務取締役 2008年6月 当社代表取締役専務 2013年4月 当社代表取締役社長 第1事業ユニット長、エンターテ インメント事業推進室 管掌 2016年10月 当社代表取締役社長 事業開発本部長 2017年10月 当社代表取締役社長 組込み事業推進部、新規事業推進 部、エンターテインメント事業開 発室 管掌 2018年5月 株式会社ウェブテクノロジー取締役 (現任) 2018年10月 当社代表取締役社長 組込み事業 部、インターネット事業部、事業 開発室 管掌(現任) 2019年5月 上海希艾維信息科技有限公司 董 事(現任) 2019年10月 株式会社ツーフাইブ 代表取締 役(現任) 2020年5月 株式会社アールフォース・エン ターテインメント取締役(現任)	注4	392,800
取締役会長	鈴木 正彦	1954年5月25日生	1981年4月 コンピューターサービス株式会社 [現CSK株式会社]入社 2000年6月 株式会社CSK [現CSK株式 会社]取締役 2002年6月 同社常務取締役 2010年10月 同社専務執行役員 2011年10月 CSK株式会社 取締役専務執 行役員 2016年4月 同社 取締役副社長執行役員(C TO) 2017年6月 同社副社長執行役員 2019年4月 同社参与(モビリティ事業部門 フェロー) 2020年4月 当社顧問 2020年12月 当社取締役会長(現任)	注4	1,400

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常務取締役	田中 克己	1966年10月21日生	<p>1989年4月 株式会社C S K [ 現 S C S K 株式会社 ] 入社</p> <p>1993年10月 株式会社セガ・エンタープライゼス [ 現株式会社セガ ] 入社</p> <p>2001年4月 株式会社アルブレイン 取締役</p> <p>2008年3月 株式会社A Q インタラクティブ 入社</p> <p>2010年2月 同社執行役員 事業企画部長</p> <p>2011年10月 株式会社マーベラスA Q L [ 現株式会社マーベラス ] 執行役員 デジタルコンテンツ事業部 副事業部長</p> <p>2013年4月 当社執行役員 コーポレート部門長</p> <p>2013年12月 当社取締役 コーポレート本部長</p> <p>2016年10月 当社取締役 コーポレート本部長、事業開発本部 副本部長 兼 広報・I R 室長</p> <p>2016年12月 当社常務取締役 コーポレート本部長、広報・I R 室長 兼 事業開発本部 副本部長</p> <p>2018年5月 株式会社ウェブテクノロジー取締役 ( 現任 )</p> <p>2018年10月 当社常務取締役 コーポレート本部長、広報・I R 室長 兼 エンターテインメント事業本部長</p> <p>2018年12月 当社常務取締役 エンターテインメント事業本部長 兼 経営企画室長</p> <p>2019年5月 上海希艾維信息科技有限公司 董事長 ( 現任 )</p> <p>2019年10月 株式会社ツーフাইブ 取締役 ( 現任 )</p> <p>2020年5月 株式会社アルフォース・エンターテインメント 取締役 ( 現任 )</p> <p>2020年12月 当社常務取締役 コーポレート本部 管掌 兼 経営企画室長 ( 現任 )</p>	注4	65,000
取締役	鈴木 泰山	1963年12月1日生	<p>1987年4月 株式会社C S K 総合研究所 入社</p> <p>2001年8月 当社へ出向</p> <p>2004年7月 当社営業部長</p> <p>2010年3月 当社取締役</p> <p>2013年4月 当社取締役 第3事業ユニット長</p> <p>2015年10月 当社取締役 医療・ヘルスケア事業推進部長</p> <p>2018年10月 当社取締役 医療・ヘルスケア事業部長 ( 現任 )</p>	注4	6,200
取締役	櫻井 敦史	1974年10月8日生	<p>2000年4月 株式会社C S K 総合研究所 入社</p> <p>2002年8月 当社へ出向</p> <p>2004年7月 当社入社</p> <p>2013年10月 当社第1事業ユニット副ユニット長 兼 開発統括マネージャー</p> <p>2015年10月 当社執行役員 研究開発本部長</p> <p>2018年10月 当社執行役員 エンターテインメント事業本部副本部長 兼 研究開発部長</p> <p>2018年12月 当社取締役 エンターテインメント事業本部副本部長 兼 研究開発部長</p> <p>2020年12月 当社取締役 エンターテインメント事業本部長 兼 研究開発部長 ( 現任 )</p>	注4	51,300



役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	飯野 智	1965年7月9日生	1989年4月 2000年3月 2004年2月 2010年9月 2013年4月 2013年6月 2015年3月 2017年3月 2019年12月 2019年12月	株式会社日立製作所入社 C S Kベンチャーキャピタル株式 会社入社 同社取締役 株式会社ウイズ・パートナーズ執 行役員 同社投資運用部長 株式会社アドバンスト・メディア 取締役(現任) 株式会社ウイズ・パートナーズマ ネージング・ディレクターファン ド事業C I O(現任) 株式会社A L B E R T 取締役 (現任) アクセルマーク株式会社 取締役 (現任) 当社取締役(現任)	注4	
取締役(監査等委員)	片山 勝博	1951年5月26日生	1977年4月 1986年3月 1998年8月 2002年6月 2005年10月 2013年12月 2017年12月 2020年10月	コンピューターサービス株式会社 [現S C S K株式会社]入社 株式会社C S K総合研究所 出 向 経理課長 C S Kネットワークシステムズ株 式会社 出向 日本カードセンター株式会社[現 株式会社クオカード] 出向 常 勤監査役 同社 業務管理部長 当社常勤監査役 当社取締役(監査等委員)(現任) 株式会社アールフォース・エン ターテインメント監査役(現任)	注5	
取締役(監査等委員)	金成 壽及	1951年12月23日生	1975年4月 1997年1月 2003年2月 2004年2月 2004年4月 2008年8月 2009年12月 2016年4月 2017年12月	株式会社住友銀行[現株式会社三 井住友銀行]入行 同行 府中支店長 株式会社セガ[現株式会社セガグ ループ] 出向 コーポレート本 部 理事 同社 CS総合管理部 参事 Sega Amusements U.S.A., Inc. 取締役CFO 株式会社セガ[現株式会社セガグ ループ] 事業支援部 参事 当社監査役 株式会社セガホールディングス [現株式会社セガグループ] コーポレート本部 財務部 参事 当社取締役(監査等委員)(現任)	注5	
取締役(監査等委員)	和藤 誠治	1979年11月22日生	2007年9月 2017年12月	弁護士登録(第一東京弁護士会) TMI総合法律事務所 入所(現任) 当社取締役(監査等委員)(現任)	注5	
計						516,700

- (注) 1. 2017年12月21日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。
2. 取締役 鈴木正彦、飯野智は、社外取締役であります。
3. 取締役 片山勝博、金成壽及及び和藤誠治は、監査等委員である社外取締役であります。
4. 2020年12月17日開催の定時株主総会終結の時から、2021年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 2019年12月19日開催の定時株主総会終結の時から、2021年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 社外取締役との関係

当社の社外取締役は5名であります。

鈴木正彦氏は、経営者としての幅広い実績及び車載分野を中心に新規事業開発に関する幅広い見識を有しております。このため、当社は、同氏が社外取締役として適任であると判断し、その深い知見に基づく助言、牽制いただけるものと判断し、選任しております。

飯野智氏は、数々のテクノロジーベンチャー企業を育成してこられた豊富な経験及び海外展開や新規事業開発に関する幅広い見識を有しております。このため、同氏が社外取締役として適任であると判断し、その深い知見に基づく助言、牽制いただけるものと判断し、選任しております。同氏は株式会社ウイズ・パートナーズのマネージング・ディレクターファンド事業CIOを兼務しており、当社は、同社が業務執行組員であるウイズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合に対し、無担保転換社債型新株予約権付社債の割り当てを行っております。

片山勝博氏は、長年に亘る上場会社における経理部門での幅広い知見と豊富な経験を有しております。このため、その深い知見に基づく助言、牽制をいただけるものと判断し、選任しております。

金成壽及氏は長年に亘る金融機関での勤務経験と、ゲーム会社における管理部門責任者及び海外法人でのCFO(最高財務責任者)経験を有しております。このため、その深い知見に基づく助言、牽制をいただけるものと判断し、選任しております。

和藤誠治氏は弁護士として高い専門性を有しております。このため、その深い知見に基づく助言、牽制をいただけるものと判断し、選任しております。同氏は、当社と顧問契約を締結しているTMI総合法律事務所の所属弁護士であり、当社は同法律事務所の他の弁護士との間に法律業務を委託する等の取引関係がありますが、前事業年度における取引額は当社の売上原価、販売費及び一般管理費の合計の0.3%未満と僅少であります。

いずれも、当社の役員・従業員であった経歴はありません。片山勝博氏、金成壽及氏は当社と資本関係や取引関係のある法人に所属されておりませんし、ご本人との取引関係もありません。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

## 社外取締役による内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会を通じて必要な情報の収集及び意見の表明を行い、連携を図っております。

また、監査等委員である社外取締役は、主に監査等委員会を通じて、情報及び意見の交換を行うとともに、会計監査人による会計監査・レビューについての報告並びに内部統制及び内部監査についての報告を受け、相互に連携しながら監査・監督を行います。

(3) 【監査の状況】

内部監査及び監査等委員会による監査の状況

a . 内部監査

当社における内部監査につきましては、社長が直轄する内部監査グループ（1名）が、自己の兼務する部門を除く当社の全部門及び子会社に関して、年間の内部監査計画にしたがってこれを実施しております。内部監査グループのスタッフが兼務する部門については、社長が指名する従業員が監査を実施して相互に牽制する体制としており、監査の効率化を図るとともに情報共有を行っております。また、監査結果については代表取締役及び部門責任者へ報告するとともに、内部統制の改善のための指導、助言を行っております。

b . 監査等委員による監査

当社の監査等委員会は、監査等委員である取締役3名（全て社外取締役）で構成されております。監査等委員は、取締役会等の重要会議に出席し意見陳述を行うこととともに、原則毎月一回開催される監査等委員会において情報共有を図ります。

当事業年度における個々の監査等委員の出席状況については以下のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
片山 勝博	12回	12回
金成 壽及	12回	12回
和藤 誠治	12回	12回

監査等委員会における主な検討事項としましては、監査計画の策定、監査報告書の作成、会計監査人の再任に関する評価、会計監査人の報酬等に関する同意、取締役および使用人の職務執行状況の評価等があります。

選定監査等委員は、当社及び子会社に対しヒアリングや現場往査を適宜行っているほか、取締役会の他、社内での主要な会議に出席し、監査等委員会に置いて監査状況を報告しております。

c . 内部監査、監査等委員による監査及び会計監査の相互連携

内部監査グループ、監査等委員会及び会計監査人は、監査の実効性を高め、かつ全体としての監査の質的向上と有機的な連携・相互補完を図るため、内部監査グループと監査等委員会、また、監査等委員会と会計監査人は、定期的に会合を持ち、各々との間での監査計画・監査結果の報告、意見交換、監査立会など緊密な相互連携の強化に努めております。

会計監査の状況

a . 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b . 継続監査期間

2007年以降

c . 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 山中 崇  
指定有限責任社員 業務執行社員 金野 広義

d . 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士8名、その他10名であります。

e . 監査法人の選定方針と理由

(会計監査人の選任又は不再任の決定の方針)

監査等委員会は、会計監査人が監督官庁から監査業務停止処分を受ける等、その職務の遂行に重大な支障が生じ、改善の見込みがないと判断した場合、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的である事項とする方針であります。また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める事項に該当し、改善の見込みがないと判断した場合、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任する方針であります。

(会計監査人の不再任の理由)

「会計監査人の解任又は不再任の決定の方針」に照らし、また、当期に係る会計監査人監査の相当性の確認及び監査期間の状況を踏まえ、会計監査人として、現在のEY新日本有限責任監査法人の再任の可否について検討した結果、同監査法人を不再任とすることとし、新たにPwC京都監査法人の選任について、2020年12月17日開催の定時株主総会にて決議いたしました。

f．監査等委員による監査法人の評価

監査等委員会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、監査法人との定期的な意見交換を通じて、監査法人の品質管理体制の構築状況、監査チームの独立性と専門性及び業務遂行状況の確認を行い、総合的に評価しております。

g．監査報酬の内容等

(監査公認会計士等に対する報酬の内容)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,000	1,500	25,000	
連結子会社				
計	20,000	1,500	25,000	

(監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬)

該当事項はありません。

(その他重要な報酬の内容)

該当事項はありません。

(監査公認会計士等の非監査業務の内容)

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外である、合意された手続業務について対価を支払っております。

(監査報酬の決定方針)

当社は、当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人が策定した監査日数、業務内容などの監査計画に基づき両方で協議の上、決定しております。

(監査報酬の同意理由)

会計監査人に関する監査報酬について、監査等委員会において「監査計画」等の資料に基づき説明を受け、内部統制部門の意見、一般的な報酬水準、会計監査人の職務遂行状況や監査体制、専門性等について審議した結果、報酬等の額について同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の役員報酬につきましては、株主総会の決議により取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び監査等委員である取締役それぞれの報酬限度額が決定されており、その限度額の範囲内において一定金額を報酬として定めております。当社は、現在、固定報酬のみで、業績連動報酬は導入しておりません。

各取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬につきましては、取締役会の決議によって一任された代表取締役社長が、内規をもとに他の役付取締役と協議の上、それぞれの職務、実績、業績及び各取締役の会社への貢献度等を総合的に勘案して決定しております。

監査等委員である取締役の報酬は、毎月定額で支給する基本報酬のみで構成されております。各監査等委員である取締役の報酬につきましては、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

また、2019年12月19日開催の株主総会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額を、年額120,000千円以内（うち社外取締役分は20,000千円以内。使用人分給与は含まない）、2017年12月21日開催の株主総会において、監査等委員である取締役の報酬限度額を、年額30,000千円以内とすることについて決議しております。なお、決議時点の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は6名（うち社外取締役1名）、監査等委員である取締役は3名であります。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数(名)
		基本報酬	業績連動報酬	退職慰労金引当額	
取締役（監査等委員 を除く。）	72,237	65,211		7,026	5
取締役（監査等委員） （社外取締役を除く。）					
社外役員	14,256	13,200		1,056	3

- (注) 1. 取締役の報酬額に、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
2. 当社は、2017年12月21日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株価の変動や株式に係る配当によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式とし、それ以外の目的で保有する株式を純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a . 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

上場株式を保有していないため、省略しております。

b . 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	2	251,620
非上場株式以外の株式		

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c . 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年10月1日から2020年9月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年10月1日から2020年9月30日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更に的確に対応できる体制を整備するため、監査法人等主催の各種セミナーに参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,887,684	3,343,210
売掛金	526,848	590,785
有価証券	996	101,269
商品		3,471
仕掛品	20,831	72,820
その他	40,942	94,903
貸倒引当金	1,436	809
流動資産合計	3,475,867	4,205,650
固定資産		
有形固定資産		
建物	30,109	49,217
減価償却累計額	13,153	18,276
建物（純額）	16,955	30,940
工具、器具及び備品	32,352	78,063
減価償却累計額	21,547	52,238
工具、器具及び備品（純額）	10,805	25,824
有形固定資産合計	27,760	56,765
無形固定資産		
ソフトウェア	206,949	270,102
のれん		27,159
その他	291	971
無形固定資産合計	207,241	298,233
投資その他の資産		
投資有価証券	575,695	470,433
繰延税金資産	42,089	60,979
その他	68,637	144,648
投資その他の資産合計	686,422	676,062
固定資産合計	921,424	1,031,061
資産合計	4,397,292	5,236,711



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	14,397	88,253
未払法人税等	25,396	32,690
賞与引当金	2,147	9,432
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	310,000	1,019,900
その他	167,044	225,068
流動負債合計	518,985	1,375,345
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,019,900	
退職給付に係る負債	97,868	109,281
役員退職慰労引当金	62,802	70,885
固定負債合計	1,180,571	180,166
負債合計	1,699,556	1,555,511
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	480,345	758,426
資本剰余金	511,837	798,812
利益剰余金	1,909,081	2,282,830
自己株式	220,131	167,943
株主資本合計	2,681,132	3,672,125
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104	4,205
為替換算調整勘定	6,907	7,210
その他の包括利益累計額合計	6,802	11,416
新株予約権	15,019	12,157
非支配株主持分	8,385	8,334
純資産合計	2,697,735	3,681,200
負債純資産合計	4,397,292	5,236,711

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
売上高	1,784,025	2,349,739
売上原価	636,732	947,909
売上総利益	1,147,293	1,401,829
販売費及び一般管理費	1, 2 778,705	1, 2 944,649
営業利益	368,588	457,180
営業外収益		
受取利息	3,676	2,593
受取配当金	5,471	4,831
その他	1,397	2,820
営業外収益合計	10,544	10,245
営業外費用		
為替差損	5,035	2,361
事務所移転費用		2,420
租税公課		1,870
開業費	1,528	
その他	870	2,880
営業外費用合計	7,433	9,532
経常利益	371,699	457,894
特別利益		
負ののれん発生益		38,675
特別利益合計		38,675
税金等調整前当期純利益	371,699	496,569
法人税、住民税及び事業税	108,159	132,782
法人税等調整額	4,943	9,978
法人税等合計	113,103	122,803
当期純利益	258,596	373,765
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失( )	712	17
親会社株主に帰属する当期純利益	259,308	373,748

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
当期純利益	258,596	373,765
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,264	4,310
為替換算調整勘定	3,976	371
その他の包括利益合計	15,241	4,682
包括利益	243,354	369,083
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	244,359	369,134
非支配株主に係る包括利益	1,004	51

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	426,814	458,306	1,649,772	220,131	2,314,762
当期変動額					
新株の発行	53,531	53,531			107,062
親会社株主に帰属する 当期純利益			259,308		259,308
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	53,531	53,531	259,308		366,370
当期末残高	480,345	511,837	1,909,081	220,131	2,681,132

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評 価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	11,369	3,150	8,218	17,227		2,340,207
当期変動額						
新株の発行						107,062
親会社株主に帰属する 当期純利益						259,308
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	11,264	3,756	15,020	2,207	8,385	8,842
当期変動額合計	11,264	3,756	15,020	2,207	8,385	357,527
当期末残高	104	6,907	6,802	15,019	8,385	2,697,735

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	480,345	511,837	1,909,081	220,131	2,681,132
当期変動額					
新株の発行	278,081	278,081	-	-	556,162
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	373,748	-	373,748
自己株式の取得	-	-	-	127	127
自己株式の処分	-	8,893	-	52,315	61,208
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-
当期変動額合計	278,081	286,974	373,748	52,187	990,992
当期末残高	758,426	798,812	2,282,830	167,943	3,672,125

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評 価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	104	6,907	6,802	15,019	8,385	2,697,735
当期変動額						
新株の発行	-	-	-	-	-	556,162
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	-	-	-	373,748
自己株式の取得	-	-	-	-	-	127
自己株式の処分	-	-	-	-	-	61,208
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	4,310	303	4,613	2,862	51	7,527
当期変動額合計	4,310	303	4,613	2,862	51	983,464
当期末残高	4,205	7,210	11,416	12,157	8,334	3,681,200

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	371,699	496,569
減価償却費	45,390	76,751
のれん償却額		6,096
負ののれん発生益		38,675
貸倒引当金の増減額(は減少)	65	626
賞与引当金の増減額(は減少)	36,589	7,285
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	6,706	11,412
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	8,061	8,082
受取利息及び受取配当金	9,147	7,424
支払利息		445
為替差損益(は益)	3,649	714
売上債権の増減額(は増加)	16,734	6,522
たな卸資産の増減額(は増加)	17,225	9,526
その他の流動資産の増減額(は増加)	2,515	9,404
仕入債務の増減額(は減少)	18,420	1,421
未払消費税等の増減額(は減少)	25,825	48,648
未払費用の増減額(は減少)	1,103	18,971
未払金の増減額(は減少)		7,248
その他の流動負債の増減額(は減少)	5,872	3,669
その他	3,666	1,606
小計	341,482	599,323
利息及び配当金の受取額	10,159	8,220
利息の支払額		445
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	232,742	161,455
営業活動によるキャッシュ・フロー	118,898	445,642
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	20,106	
貸付金の回収による収入		119
有形固定資産の取得による支出	12,833	18,357
無形固定資産の取得による支出	96,831	94,874
会員権の取得による支出		2,500
保険積立金の積立による支出		401
敷金及び保証金の差入による支出	9,773	
敷金及び保証金の返還による収入		5,066
投資有価証券の償還による収入	100,000	
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2	2 18,518
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 60,829	2 40,966
その他	293	293
投資活動によるキャッシュ・フロー	59,867	133,102
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)		105,332
長期借入金の返済による支出		52,502
新株予約権の行使による株式の発行による収入	105,006	243,356
自己株式の取得による支出		127
自己株式の処分による収入		61,208
非支配株主からの払込みによる収入	9,390	
財務活動によるキャッシュ・フロー	114,396	146,602
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,967	971
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	166,459	458,171
現金及び現金同等物の期首残高	2,725,337	2,891,796

現金及び現金同等物の期末残高

1	2,891,796	1	3,349,968
---	-----------	---	-----------

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

主要な連結子会社の名称

株式会社ウェブテクノロジー

株式会社ツーファイブ

株式会社アールフォース・エンターテインメント

上海希艾維信息科技有限公司

なお、当連結会計年度において株式を取得した株式会社ツーファイブ、株式会社アールフォース・エンターテインメントを連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
株式会社ウェブテクノロジー	8月31日
上海希艾維信息科技有限公司	12月31日

連結財務諸表の作成にあたっては、次のとおりであります。

株式会社ウェブテクノロジーについては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、9月1日から連結決算日9月30日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

上海希艾維信息科技有限公司については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

第1四半期連結会計期間より子会社となった株式会社ツーファイブについては、2019年10月31日を取得日としているため、同社の2019年11月1日以降の損益計算書を連結しております。なお、当連結会計年度において株式会社ツーファイブは決算期を9月30日に変更し、連結決算日と同一となっております。

第3四半期連結会計期間より子会社となった株式会社アールフォース・エンターテインメント及び同社の100%子会社である株式会社エモリアについては、2020年6月30日をみなし取得日としているため、同社の2020年7月1日以降の損益計算書を連結しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

イ. 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

ロ. その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

商品、仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。



(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内の連結子会社は定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。また、在外子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物.....10年～18年

工具、器具及び備品...4年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、市場販売目的のソフトウェアについては見込販売収益に基づく償却額と見込販売可能期間(3～5年)に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上する方法を採用しております。また、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退任慰労金内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当連結会計年度末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。また、国内の連結子会社は、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度を採用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

受託開発のソフトウェアに係る売上高及び売上原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について、成果の確実性が認められる契約

工事進行基準(進捗率の見積りは原価比例法)を適用しております。

その他の契約

工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年9月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

税効果会計関係注記において、税務上の繰越欠損金の額の重要性が増したため、当連結会計年度より、「税効果会計基準一部改正」第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。

前連結会計年度において「その他」に含めておりました「繰越欠損金」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度において「その他」に表示していた1,430千円は、「繰越欠損金」1,338千円及び「その他」91千円として組み替えております。

(追加情報)

(会計上の見積り)

当社グループは、現時点において入手可能な情報に基づき検討した結果、新型コロナウイルス感染症の拡大による当社グループの財政状態、経営成績に重要な影響を及ぼす可能性は少ないものと考え、会計上の見積もりの変更等の処理は実施しておりません。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、今後の推移状況を注視してまいります。

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱いの適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を2018年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

後述の「4. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

2. 採用している会計処理の概要

新株予約権を発行したときは、その発行に伴う払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上しております。新株予約権が行使され、新株を発行するときは、当該新株予約権の発行に伴う払込金額と新株予約権の行使に伴う払込金額を、資本金及び資本準備金に振り替えます。

なお、新株予約権が失効したときは、当該失効に対応する額を失効が確定した会計期間の利益として処理しております。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
役員報酬	94,192千円	98,671千円
給与手当	181,356	255,816
賞与引当金繰入額	2,147	9,432
役員退職慰労引当金繰入額	8,061	8,082
退職給付費用	3,687	5,247
貸倒引当金繰入額	65	626
研究開発費	90,727	71,254

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
	90,727千円	71,254千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	11,272千円	4,323千円
組替調整額		
税効果調整前	11,272	4,323
税効果額	7	13
その他有価証券評価差額金勘定	11,264	4,310
為替換算調整勘定		
当期発生額	3,976	371
組替調整額		
税効果調整前	3,976	371
税効果額		
為替換算調整勘定	3,976	371
その他の包括利益合計	15,241	4,682

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式 (注) 1	4,962,218	111,700		5,073,918
合計	4,962,218	111,700		5,073,918
自己株式				
普通株式	159,032			159,032
合計	159,032			159,032

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加111,700株は、新株予約権の行使による増加であります。

## 2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権 (第3回新株予約権)						3,216
	第4回新株予約権	普通株式	170,800			170,800	2,664
	ストック・オプションとしての新株予約権 (第5回新株予約権)						9,139
合計			170,800			170,800	15,019

## 3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式 (注) 1	5,073,918	444,432		5,518,350
合計	5,073,918	444,432		5,518,350
自己株式				
普通株式 (注) 2	159,032	83	37,800	121,315
合計	159,032	83	37,800	121,315

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加444,432株は、新株予約権の行使による増加であります。

2. 普通株式の自己株式の減少37,800株は、2019年10月31日及び2020年6月1日に行った自己株式の処分によるものであります。また、普通株式の自己株式の増加83株は、単元未満株式の買い取りによるものであります。

2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権 (第3回新株予約権)						3,074
	第4回新株予約権	普通株式	170,800		170,800		
	ストック・オプションとしての新株予約権 (第5回新株予約権)						9,083
合計			170,800		170,800		12,157

(注) 第4回新株予約権の減少は、権利行使によるものであります。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	2,887,684千円	3,343,210千円
有価証券	996	1,269
預け金	3,115	5,487
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金		
現金及び現金同等物	2,891,796	3,349,968

## 2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

「連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出」は、前連結会計年度における株式会社ウェブテクノロジの株式取得代金の未払分を当連結会計年度に支払ったものであります。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

株式の取得により新たに株式会社ツーフाइブを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社ツーフाइブ株式の取得価額と「連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入」との関係は次のとおりであります。

株式会社ツーフाइブ	
流動資産	134,385
固定資産	15,572
のれん	33,255
流動負債	70,710
固定負債	52,502
株式の取得価額	60,000
新規連結子会社の現金及び現金同等物	78,518
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社 株式の取得による収入	18,518

株式の取得により新たに株式会社アールフォース・エンターテインメントを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社アールフォース・エンターテインメント株式の取得価額と「連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出」との関係は次のとおりであります。

株式会社アールフォース・エンターテインメント	
流動資産	327,704
固定資産	134,447
流動負債	163,455
固定負債	3,513
負ののれん発生益	38,675
株式の取得価額	256,508
新規連結子会社の現金及び現金同等物	215,541
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社 株式の取得による支出	40,966

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資産運用規程に基づき、一時的な余資は主に安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。連結子会社についても、同様の方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、満期保有目的の債券とその他有価証券です。有価証券は公社債や短期金融商品を対象とした追加型投資信託（MMF等）であります。また、投資有価証券のうち満期保有目的の債券は、格付けの高い債券を対象としており、また、その他有価証券は業務上の関係を有する企業の株式であり、非上場株式のため業績の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払費用等は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日ではありますが、一部外貨建のものについては、為替の変動リスクに晒されております。

転換社債型新株予約権付社債は、資本・業務提携、M&Aに要する投資資金として発行しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権についてコーポレート本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク

当社は各部署からの報告に基づき、コーポレート本部が適時に入金見込を管理するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。



2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

前連結会計年度(2019年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,887,684	2,887,684	
(2) 売掛金	526,848	526,848	
(3) 有価証券	996	996	
(4) 投資有価証券	319,775	320,314	539
資産計	3,735,305	3,735,845	539
(1) 未払法人税等	25,396	25,396	
(2) 1年内償還予定の転換社債 型新株予約権付社債	310,000	310,000	
(3) 転換社債型新株予約権 付社債	1,019,900	1,019,900	
負債計	1,355,296	1,355,296	

当連結会計年度(2020年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,343,210	3,343,210	
(2) 売掛金	590,785	590,785	
(3) 有価証券	101,269	101,269	
(4) 投資有価証券	218,813	217,565	1,248
資産計	4,254,079	4,252,830	1,248
(1) 未払法人税等	32,690	32,690	
(2) 1年内償還予定の転換社債 型新株予約権付社債	1,019,900	1,019,900	
負債計	1,052,590	1,052,590	

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券、(4) 投資有価証券

これらの時価については、取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(1) 未払法人税等

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (2) 1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債、(3) 転換社債型新株予約権付社債  
元利金の合計額(利率ゼロ)を、同様の社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
非上場株式	255,920	251,620

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、2. 金融商品の時価等に関する事項 (4) 投資有価証券には含めておりません。

## 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,886,905			
売掛金	526,848			
有価証券				
MMF	996			
投資有価証券				
満期保有目的の債券		119,775	200,000	
社債				
合計	3,414,750	119,775	200,000	

当連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,342,643			
売掛金	590,785			
有価証券				
MMF	1,269			
満期保有目的の債券	100,000			
投資有価証券				
満期保有目的の債券		118,813	100,000	
合計	4,034,697	118,813	100,000	

4. 社債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
転換社債型新株予約権付社債	310,000	1,019,900				
合計	310,000	1,019,900				

当連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
転換社債型新株予約権付社債	1,019,900					
合計	1,019,900					

(有価証券関係)

## 1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2019年9月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	社債	303,379	304,089	709
	小計	303,379	304,089	709
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	社債	16,396	16,225	170
	小計	16,396	16,225	170
合計		319,775	320,314	539

当連結会計年度(2020年9月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	社債	116,230	116,275	45
	小計	116,230	116,275	45
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	社債	202,583	201,290	1,293
	小計	202,583	201,290	1,293
合計		318,813	317,565	1,248

## 2. その他有価証券

前連結会計年度(2019年9月30日)

非上場株式(連結貸借対照表計上額255,920千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

当連結会計年度(2020年9月30日)

非上場株式(連結貸借対照表計上額251,620千円)については、市場価格がなく、時価を把握するところが極めて困難と認められることから記載しておりません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職給付制度として、退職金規程に基づく確定給付型の退職一時金制度を採用し、国内の連結子会社は、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度を採用しております。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	91,162千円	97,868千円
退職給付費用	12,304	13,923
退職給付の支払額	5,598	2,511
退職給付に係る負債の期末残高	97,868	109,281

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	97,868千円	109,281千円
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	97,868	109,281
退職給付に係る負債	97,868	109,281
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	97,868	109,281

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用      前連結会計年度 12,304千円      当連結会計年度 13,923千円

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額      前連結会計年度 1,250千円      当連結会計年度 2,337千円

(ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

## 2. スtock・オプションに係る当初の資産計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
現金及び預金	千円	千円

## 3. 権利不行使により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
営業外収益(その他) の新株予約権戻入益	151千円	56千円

## 4. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

## (1) スtock・オプションの内容

提出会社

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第5回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 4名、当社従業員 58名	当社取締役 5名、当社従業員 54名	当社取締役 3名、当社従業員 55名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 579,600株	普通株式 211,500株	普通株式 337,600株
付与日	2013年11月14日	2015年12月18日	2018年2月15日
権利確定条件	<p>新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役、従業員の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合にはこの限りではない。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>新株予約権者は、当社株式が日本国内の証券取引所に上場された日及び権利行使期間の開始日のいずれか遅い方の日以後において新株予約権を行使することができる。</p>	<p>新株予約権者は、当社が金融商品取引法に基づき提出した有価証券報告書に記載された2016年9月期(2015年10月1日から2016年9月30日まで)、2017年9月期(2016年10月1日から2017年9月30日まで)又は2018年9月期(2017年10月1日から2018年9月30日まで)の連結損益計算書における営業利益の額のいずれかが370百万円を超過した場合、新株予約権者に割り当てられた新株予約権を権利行使することができる。また、当社の連結範囲に変動があり、当社において作成される損益計算書が個別損益計算書のみとなった場合は、上記「連結損益計算書」は「個別損益計算書」と読みかえるものとする。</p>	<p>新株予約権者は、当社が金融商品取引法に基づき提出した有価証券報告書に記載された2020年9月期(2019年10月1日から2020年9月30日まで)又は2021年9月期(2020年10月1日から2021年9月30日まで)の連結損益計算書における営業利益の額のいずれかが445百万円を超過した場合に限り、新株予約権者に割り当てられた新株予約権を行使することができる。ただし、当社の連結範囲に変動があり、当社において作成される損益計算書が個別損益計算書のみとなった場合は、上記「連結損益計算書」は「個別損益計算書」と読みかえるものとする。</p>

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第5回新株予約権
権利確定条件		<p>新株予約権者は、当社又は当社子会社を退任又は退職した場合には、未行使の新株予約権を行使できなくなるものとする。ただし、新株予約権者が当社又は当社子会社側の都合による退職により権利行使資格を喪失した場合で、当社が諸般の事情を考慮の上、当該新株予約権者による新株予約権の行使を書面により承認した場合は、当該新株予約権者は、権利行使資格喪失の日より1年間を経過する日と新株予約権の権利行使期間満了日のいずれか早い方の日に至るまでに限り、権利行使資格を喪失しなければ行使できるはずであった新株予約権を行使することができる。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>1個の新株予約権の一部行使は認めない。</p>	<p>新株予約権者は、当社又は当社子会社を退任又は退職した場合には、未行使の新株予約権を行使できなくなるものとする。ただし、新株予約権者が当社又は当社子会社側の都合による退職により権利行使資格を喪失した場合で、当社が諸般の事情を考慮の上、当該新株予約権者による新株予約権の行使を書面により承認した場合は、当該新株予約権者は、権利行使資格喪失の日より1年間経過する日と新株予約権の権利行使期間満了日のいずれか早い方の日が到来するまでに限り、権利行使資格を喪失しなければ行使できるはずであった新株予約権を行使することができる。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めない。</p> <p>1個の新株予約権の一部行使は認めない。</p> <p>その他の権利の行使の条件は、当社と新株予約権の割当てを受ける者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる</p>
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2015年11月1日 至 2020年10月31日	自 2016年1月16日 至 2023年1月15日	自 2020年12月1日 至 2026年2月14日

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、2014年8月6日付で1株を200株とする株式分割を、また2015年4月1日付で1株を3株とする株式分割を実施しているため、分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2020年9月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第5回新株予約権
権利確定前(株)			
前連結会計年度末			326,400
付与			
失効			2,000
権利確定			324,400
未確定残			
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	82,200	110,900	
権利確定			324,400
権利行使	36,000	4,900	
失効			
未行使残	46,200	106,000	324,400

(注) 2014年8月6日付で1株を200株とする株式分割を、また2015年4月1日付で1株を3株とする株式分割を実施しているため、分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第5回新株予約権
権利行使価格(円)	259	1,332	2,029
行使時平均株価(円)	1,659.25	1,818.50	
付与日における公正な評価単価(円)		29	28

(注) 2014年8月6日付で1株を200株とする株式分割を、また2015年4月1日付で1株を3株とする株式分割を実施しているため、分割後の価格に換算して記載しております。



5. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

6. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額	66,158千円
(2) 当連結会計年度において権利行使された本源的価値の合計額	48,041千円

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	440千円	248千円
未払事業税	3,372	7,457
賞与引当金	721	3,167
税務上の繰越欠損金(注)1	1,338	12,712
減価償却超過額	1,410	2,077
資産除去債務	6,166	7,005
退職給付に係る負債	29,971	33,466
役員退職慰労引当金	19,232	21,708
株式取得費用	1,760	1,760
その他	91	40
繰延税金資産小計	64,505	89,644
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)1	1,338	1,655
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	21,076	23,495
評価性引当額	22,415	25,151
繰延税金資産合計	42,089	64,493
繰延税金負債		
連結子会社の時価評価差額		3,513
繰延税金負債合計		3,513
繰延税金資産の純額	42,089	60,979

(注)1. 税務上の繰越欠損金及びその繰越税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)						1,338	1,338
評価性引当額						1,338	1,338
繰延税金資産							

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(b)	9,761	1,295				1,655	12,712
評価性引当額						1,655	1,655
繰延税金資産	9,761	1,295					(c) 11,056

(b) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(c) 税務上の繰越欠損金12,712千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産11,056千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断しております。

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった

## 主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当連結会計年度 (2020年9月30日)
法定実効税率		30.62%
(調整)	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.26%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		0.06%
住民税均等割		0.46%
評価性引当額の増減		0.55%
税額控除		1.55%
負ののれん発生益		2.38%
のれん償却額		0.38%
過年度法人税等		1.44%
連結子会社の税率差異		2.31%
その他		0.20%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		24.73%

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 有限会社ツーファイブ

当社は、2019年9月30日開催の取締役会において、有限会社ツーファイブの全株式を取得し完全子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2019年10月31日に全株式を取得いたしました。

(1) 目的及び理由

当社は、主力である音声関連ミドルウェアと映像関連ミドルウェアをさまざまな分野の顧客ニーズに合ったかたちで製品化し、幅広く展開しております。主な対象分野として、スマートフォンゲームや家庭用ゲームをはじめ、カラオケ機器などのエンターテインメント分野、家電・IoT 機器や医療ヘルスケア分野に展開しており、昨今は監視カメラや Web 動画といった、新たな分野へも事業領域を拡げております。また、子会社である株式会社ウェブテクノロジーにおいては、ゲーム分野を中心に画像最適化ソリューションを幅広く展開しております。

有限会社ツーファイブ(以下「ツーファイブ社」という。)の中心事業は音響制作であり、主にスマートフォンアプリのゲームや家庭用ゲーム機ソフトの音声制作を行っております。近年はセリフ付きゲームの需要が高まっており、ツーファイブ社の主な業務も、声優のキャストイングから、演出・収録・加工・編集・データ化までを総合的に手掛けるサウンド制作へと拡大しております。

この度、ツーファイブ社がグループ入りし、これまで当社が行ってきたミドルウェアビジネスとツーファイブ社の音響制作事業が融合されることで、当社グループはサウンドソリューションを上流から下流までワンストップで提供できることとなります。ツーファイブ社が持つサウンド制作やコンテンツ制作などに関する現場の知見やノウハウをグループ内に取り込み、当社の持っているテクノロジーを余すことなく活用することで、より高度で先進的なゲームサウンドを実現いたします。

また、ツーファイブ社としては、当社製品やテクノロジーを活用することで、より効率的に高品質な音響制作が可能となり、当社としては、サウンド制作者を直接支援することで、現場のニーズや課題を早期に把握し、当社製品の進化やテクノロジーの高度化に寄与すると考えております。

これらの理由から、当社はツーファイブ社の全株式を取得することといたしました。

(2) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 有限会社ツーファイブ

事業の内容 音響制作(作詞、作曲、編曲、レコーディング、音声の加工や編集等)、CDの制作販売、レコーディングスタジオの運営、イベントの企画運営等

企業結合日

2019年10月31日

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

株式会社ツーファイブ

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が議決権の100%を取得し、完全子会社化することによるものであります。

(3) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2019年11月1日から2020年9月30日まで

(4) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	60,000千円
取得原価		60,000千円

(5) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	9,701千円
-----------	---------

(6) 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん金額

33,255千円

発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

5年の均等償却

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	134,385千円
固定資産	15,572千円
資産合計	149,957千円
流動負債	70,710千円
固定負債	52,502千円
負債合計	123,213千円

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2. 株式会社アールフォース・エンターテインメント

当社は、2020年5月14日開催の取締役会において、株式会社アールフォース・エンターテインメント（以下、「アールフォース社」）の全株式を取得し完全子会社化することについて決議し、同日付けで株式譲渡契約を締結し、2020年5月29日に全株式を取得いたしました。

(1) 目的及び理由

当社は、音声・映像関連のデジタル技術を軸にさまざまな分野の顧客ニーズに適合させミドルウェア製品として幅広く展開しております。主な対象分野として、スマートフォンゲームや家庭用ゲームをはじめ、カラオケなどのエンターテインメント分野、家電・IoT機器や医療ヘルスケア分野に展開しており、昨今は車載や監視カメラ向けソリューション、Web動画といった、新たな分野へも事業領域を拡げております。また、子会社の株式会社ウェブテクノロジー及び株式会社ツーファイブにつきましても、ゲーム分野を中心とした業界に高品質な製品・サービスを提供しております。

アールフォース社は、ゲーム開発会社として大手パブリッシャーからの受託制作を中心に、オリジナルゲーム及び有名IPタイトル・アプリ開発を行っており、卓越した企画・開発力はゲームユーザーにも高い評価を得ております。

アールフォース社が当社グループに加わることで、これまで当社が蓄積してきた音声・映像関連技術とアールフォース社が持つネットワーク技術や独自フレームワークによる高い生産性、開発管理ノウハウが融合され、より付加価値の高い製品・サービスの提供やサポートを行えるようになります。

将来的には、両社が強みを持つネットワーク、インタラクティブ、データアナリティクス等の処理技術を応用した新しい次世代コンテンツプラットフォームの構築、提供をめざしていきたいと考えております。

これらの理由から、当社はアールフォース社の全株式を取得することといたしました。

(2) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社アールフォース・エンターテインメント

事業の内容 ネットワークを活用したゲーム用ソフトウェアの企画、制作、販売、運営

企業結合日

2020年5月29日

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

名称に変更はありません

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が議決権の100%を取得し、完全子会社化することによるものであります。

(3) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2020年7月1日から2020年9月30日まで

(4) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	256,508千円
<hr/>		
取得原価		256,508千円

(5) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等 3,501千円

(6) 負ののれん発生益の金額及び発生原因

発生した負ののれんの金額

38,675千円

なお、当連結会計年度の第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、第4四半期連結会計期間において確定しております。その他流動負債とソフトウェアの計上金額の妥当性を再度検証した結果、暫定的に算定された負ののれんの金額58,488千円は会計処理の確定により19,813千円減少し、38,675千円となりました。

発生原因

企業結合時の時価純資産が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	327,704千円
固定資産	134,447千円
<hr/>	
資産合計	462,152千円
<hr/>	
流動負債	163,455千円
固定負債	3,513千円
<hr/>	
負債合計	166,968千円

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	250,193千円
営業損失	75,193
経常損失	69,662
税金等調整前当期純損失	71,072
親会社株主に帰属する当期純損失	84,544
1株当たり当期純損失	15.97円

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定し算定された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(2019年9月30日)

(1) 当社及び子会社の当該資産除去債務の概要

本社事務所の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

(2) 当該資産除去債務の金額を連結貸借対照表に計上していない理由

資産除去債務の負債計上に代えて、当該不動産賃貸借契約に係る敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

なお、当連結会計年度末において敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額は、19,895千円であります。

当連結会計年度(2020年9月30日)

(1) 当社及び子会社の当該資産除去債務の概要

本社事務所の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

(2) 当該資産除去債務の金額を連結貸借対照表に計上していない理由

資産除去債務の負債計上に代えて、当該不動産賃貸借契約に係る敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

なお、当連結会計年度末において敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額は、22,711千円であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループのセグメントは、顧客・マーケットを総合的に勘案し区分しております。各セグメントの事業内容と主要な関係会社は以下のとおりであります。

(ゲーム事業)

主にゲーム業界向けに、ゲーム開発をスムーズかつ効率的に行うための音声・映像関連ミドルウェアの提供や、画像最適化ソリューションの提供、音響制作、ゲーム開発・運営等を行っております。

取り扱う主な会社：当社、株式会社ウェブテクノロジー、株式会社ツーフାଇブ、株式会社アールフォース・エンターテインメント、上海希艾維信息科技有限公司

(エンタープライズ事業)

ゲーム事業で培った音声・映像関連の技術を活かし、主にゲーム業界以外の業界向けに、音声・映像関連ミドルウェアやソリューションの提供、関連する受託開発等を行っております。特にカラオケ機器や車載機器、家電・IoT機器などの組込み分野や、EC市場やセキュリティ市場、医療・ヘルスケア市場などの新規分野に注力しております。

取り扱う主な会社：当社

ミドルウェアとは、ハードウェアやOSと、アプリケーションソフトウェアとの中間(ミドル)に位置するソフトウェアをいいます。ミドルウェアは、ハードウェアやOSの特性を押さえながら違いを吸収し、その上で実行されるアプリケーションソフトウェアの動作や開発をスムーズにし、クオリティの向上、開発工数の削減、開発期間の短縮、開発難易度の低減などの効果を生みます。また、アプリケーションを多くのプラットフォームに展開しやすくし、顧客のビジネス拡大にも貢献します。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

資産及び負債等に関する情報は経営資源配分及び業績評価の中心となる情報として取り扱っていないため、開示を省略しております。なお、償却資産の減価償却費は事業セグメントに配分しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、「ミドルウェア事業」の単一セグメントでありましたが、新たに連結子会社が加わったことから事業区分及び事業活動の実態を適切に表すとともに、事業内容を明瞭に表示する目的で、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を「ゲーム事業」「エンタープライズ事業」に変更しております。なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。



## 4. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			連結損益計算書 計上額
	ゲーム事業	エンター プライズ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,156,401	627,624	1,784,025	1,784,025
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	1,156,401	627,624	1,784,025	1,784,025
セグメント利益	346,272	22,315	368,588	368,588
その他の項目				
減価償却費	26,132	19,258	45,390	45,390

(注) 1. セグメント利益と連結損益計算書の営業利益に差異はありません。

2. セグメント資産、セグメント負債については、経営の意思決定上、各セグメントに配分していないため記載しておりません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			連結損益計算書 計上額
	ゲーム事業	エンター プライズ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,708,217	641,522	2,349,739	2,349,739
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	1,708,217	641,522	2,349,739	2,349,739
セグメント利益	432,322	24,858	457,180	457,180
その他の項目				
減価償却費	40,383	36,368	76,751	76,751
のれんの償却額	6,096		6,096	6,096

(注) 1. セグメント利益と連結損益計算書の営業利益に差異はありません。

2. セグメント資産、セグメント負債については、経営の意思決定上、各セグメントに配分していないため記載しておりません。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社セガゲームス	195,762	ゲーム事業

(注)「株式会社セガゲームス」は2020年4月1日付で「株式会社セガ」へ商号変更しております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社セガ	160,362	ゲーム事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ゲーム事業	エンタープライズ事業	
当期末残高	27,159		27,159

(注)のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

「ゲーム事業」において、株式会社アールフォース・エンターテインメントを新たに連結子会社といたしました。これに伴い、当連結会計年度において負ののれん発生益38,675千円を計上しております。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 が議決権 の過半数 を自己の 計算にお いて保有 している 会社	株式会社セ ガゲームス	東京都 品川区	100,000	ゲーム関連 コンテンツ の企画・開 発・販売	(被所有) 間接 13.0	ミドルウェ アの使用許 諾先	ミドルウェ アの使用許 諾売上	195,462	売掛金	44,124

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
上記各社との取引については一般の取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 が議決権 の過半数 を自己の 計算にお いて保有 している 会社	株式 会社 セ ガ	東京都 品川区	100,000	ゲーム関連 コンテンツ の企画・開 発・販売	(被所有) 間接 11.9	ミドルウェ アの使用許 諾先	ミドルウェ アの使用許 諾売上	160,362	売掛金	43,092

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
上記各社との取引については一般の取引条件と同様に決定しております。  
3. 2020年4月1日付で株式会社セガゲームスから株式会社セガに商号を変更しております。

## (2) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社及びその子会社	株式会社RAY (注3)	東京都 渋谷区	1,000	情報サービス		業務委託先	グローバル展開に関するコンサルティング	10,800	未払費用	1,474

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記各社との取引については一般の取引条件と同様に決定しております。

3. 当社子会社役員である中里英一郎が議決権の100%を所有しております。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社及びその子会社	株式会社RAY (注3)	東京都 渋谷区	1,000	情報サービス		業務委託先	グローバル展開に関するコンサルティング	11,600	未払費用	1,031
重要な子会社の役員	溝口功 (注4)			子会社役員			子会社株式の取得 (注5)	60,000		
	横山裕一			子会社役員			子会社株式の取得 (注5)	36,888		
	本田信行			子会社役員			子会社株式の取得 (注5)	34,445		

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記各社との取引については一般の取引条件と同様に決定しております。

3. 当社子会社役員である中里英一郎が議決権の100%を所有しております。

4. 溝口功氏は、2019年10月31日付で子会社の代表取締役を退任しており、同日付で顧問に就任しております。

5. 取引金額は、当該子会社の純資産額を基礎として、両者協議の上で決定したものであります。

## 2. 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり純資産額	544.12円	678.28円
1株当たり当期純利益金額	53.26円	70.60円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	44.76円	64.86円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり当期純利益金額		
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	259,308	373,748
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額(千円)	259,308	373,748
普通株式の期中平均株式数(株)	4,868,509	5,293,676
(2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	924,500	467,879
(うち転換社債(株))	(582,732)	(374,163)
(うち新株予約権(株))	(341,768)	(93,716)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

( 転換社債型新株予約権付社債の繰上償還 )

当社は、2017年7月18日に発行いたしました第3回無担保転換社債型新株予約権付社債（以下「本新株予約権付社債」といいます。）に関して、社債権者より繰上償還請求に係る事前通知を受領いたしました。概要は以下のとおりであります。

- |            |   |
|------------|---|
| 1．繰上償還する銘柄 | 株式会社C R I ・ミドルウェア第3回無担保転換社債型新株予約権付社債                          |
| 2．繰上償還予定日  | 2020年12月30日   |
| 3．繰上償還額    | 1,019,900千円   |
| 4．繰上償還金額   | 額面100円につき金100円  |
| 5．繰上資金     | 自己資金により償還する予定であります。   |
| 6．割当先      | ウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合                               |
| 7．繰上償還理由   | 本新株予約権付社債発行要項における、「16．償還の方法（3）」に基づく社債権者からの繰上償還請求の事前通知を受領したため。 |

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社C R I ・ ミドルウェア	第1回無担保転換 社債型新株予約権 付社債(注)1、2	2015.11.30	310,000			なし	2019.12.25
株式会社C R I ・ ミドルウェア	第3回無担保転換 社債型新株予約権 付社債(注)2	2017.7.18	1,019,900	1,019,900 (1,019,900)		なし	2021.7.16
合計			1,329,900	1,019,900 (1,019,900)			

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

なお、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債は、2019年11月7日までに全ての権利行使が行われております。

2. 新株予約権付社債に関する記載は次のとおりであります。

銘柄	第1回	第3回
発行すべき株式	普通株式	普通株式
新株予約権の発行価額(円)	無償	無償
株式の発行価格(円)	1,332	2,914
発行価額の総額(千円)	310,000	1,019,900
新株予約権の行使により発行した 株式の発行価額の総額(千円)	310,000	
新株予約権の付与割合(%)	100	100
新株予約権の行使期間	2015.11.30 ~ 2019.12.24	2017.7.18 ~ 2021.7.15

なお、新株予約権を行使しようとする者の請求があるときは、その新株予約権が付せられた社債の全額の償還に代えて、新株予約権の行使に際して払込みをなすべき額の全額の払込みがあったものとします。また、新株予約権が行使されたときには、当該請求があったものとみなします。

3. 連結決算日後5年間の償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
1,019,900				

## 【借入金等明細表】

該当事項はありません。

## 【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

## (2) 【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	480,076	1,008,996	1,466,701	2,349,739
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	65,534	151,025	234,501	496,569
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	52,120	108,960	171,389	373,748
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	10.13	20.81	32.53	70.60

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純 利益金額 (円)	10.13	10.67	11.70	37.66

(注) 第4四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第3四半期の関連する四半期情報項目については当該見直しが反映された後の数値を記載しています。



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,176,761	2,862,936
売掛金	504,953	473,630
有価証券		100,000
仕掛品	20,831	37,386
前払費用	33,649	32,629
その他	9,328	163,103
貸倒引当金	1,436	875
流動資産合計	2,744,088	3,668,810
固定資産		
有形固定資産		
建物	16,955	16,102
工具、器具及び備品	9,941	8,379
有形固定資産合計	26,897	24,482
無形固定資産		
ソフトウェア	193,269	203,177
その他	291	291
無形固定資産合計	193,561	203,469
投資その他の資産		
投資有価証券	559,299	454,203
関係会社株式	694,300	524,011
出資金	1,294	1,001
繰延税金資産	40,669	49,220
その他	63,082	62,595
投資その他の資産合計	1,358,646	1,091,033
固定資産合計	1,579,105	1,318,985
資産合計	4,323,193	4,987,796

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	13,263	35,782
未払費用	40,010	27,519
未払法人税等	26,602	23,354
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	310,000	1,019,900
前受金	31,918	46,740
預り金	6,867	6,204
その他	9,103	40,614
流動負債合計	437,765	1,200,115
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,019,900	
退職給付引当金	97,868	109,281
役員退職慰労引当金	62,802	70,885
固定負債合計	1,180,571	180,166
負債合計	1,618,336	1,380,282
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	480,345	758,426
資本剰余金		
資本準備金	470,345	748,426
その他資本剰余金		
自己株式処分差益	41,492	50,385
資本剰余金合計	511,837	798,812
利益剰余金		
利益準備金	927	927
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,916,739	2,209,314
利益剰余金合計	1,917,666	2,210,241
自己株式	220,131	167,943
株主資本合計	2,689,717	3,599,536
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	120	4,180
評価・換算差額等合計	120	4,180
新株予約権	15,019	12,157
純資産合計	2,704,857	3,607,513
負債純資産合計	4,323,193	4,987,796

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
売上高	1 1,586,189	1 1,677,441
売上原価		
当期製品製造原価	605,609	634,036
売上原価合計	605,609	1 634,036
売上総利益	980,579	1,043,405
販売費及び一般管理費	2 610,885	1、2 645,373
営業利益	369,694	398,032
営業外収益		
受取利息	3,229	2,316
受取配当金	5,471	4,831
経営指導料	1 4,000	1 4,350
消耗品売却代	12	
その他	886	1,918
営業外収益合計	13,600	13,416
営業外費用		
為替差損	1,321	2,302
租税公課		1,870
その他		515
営業外費用合計	1,321	4,688
経常利益	381,973	406,759
税引前当期純利益	381,973	406,759
法人税、住民税及び事業税	101,898	122,736
法人税等調整額	12,441	8,551
法人税等合計	114,339	114,185
当期純利益	267,633	292,574

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	426,814	416,814	41,492	458,306	927	1,649,105	1,650,032	220,131	2,315,021
当期変動額									
新株の発行	53,531	53,531		53,531					107,062
当期純利益						267,633	267,633		267,633
自己株式の取得									
自己株式の処分									
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	53,531	53,531		53,531		267,633	267,633		374,695
当期末残高	480,345	470,345	41,492	511,837	927	1,916,739	1,917,666	220,131	2,689,717

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	11,360	11,360	17,227	2,343,609
当期変動額				
新株の発行				107,062
当期純利益				267,633
自己株式の取得				
自己株式の処分				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	11,240	11,240	2,207	13,447
当期変動額合計	11,240	11,240	2,207	361,248
当期末残高	120	120	15,019	2,704,857

当事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	480,345	470,345	41,492	511,837	927	1,916,739	1,917,666	220,131	2,689,717
当期変動額									
新株の発行	278,081	278,081		278,081					556,162
当期純利益						292,574	292,574		292,574
自己株式の取得								127	127
自己株式の処分			8,893	8,893				52,315	61,208
株主資本以外の項目の当 期変動額(純額)									
当期変動額合計	278,081	278,081	8,893	286,974		292,574	292,574	52,187	909,819
当期末残高	758,426	748,426	50,385	798,812	927	2,209,314	2,210,241	167,943	3,599,536

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	120	120	15,019	2,704,857
当期変動額				
新株の発行				556,162
当期純利益				292,574
自己株式の取得				127
自己株式の処分				61,208
株主資本以外の項目の当 期変動額(純額)	4,300	4,300	2,862	7,162
当期変動額合計	4,300	4,300	2,862	902,656
当期末残高	4,180	4,180	12,157	3,607,513

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物.....10年～18年

工具、器具及び備品...4年～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、市場販売目的のソフトウェアについては見込販売収益に基づく償却額と見込販売可能期間(3～5年)に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上する方法を採用しております。また、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えて、当事業年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当事業年度末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退任慰労金内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4．収益及び費用の計上基準

受託開発のソフトウェアに係る売上高及び売上原価の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について、成果の確実性が認められる契約

工事進行基準(進捗率の見積りは原価比例法)を適用しております。

(2) その他の契約

工事完成基準を適用しております。

5．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
短期金銭債権	18,965千円	164,857千円
短期金銭債務	千円	20,385千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
営業取引による取引高		
売上高	15,396千円	62,717千円
売上原価、販売費及び一般管理費	千円	22,732千円
営業取引以外の取引による取引高	4,000千円	4,390千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	当事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)
役員報酬	80,992千円	80,811千円
給与手当	147,437	155,152
役員退職慰労引当金繰入額	8,061	8,082
退職給付費用	3,687	4,647
減価償却費	6,595	6,619
貸倒引当金繰入額	65	560
業務委託料	52,362	54,067
研究開発費	36,216	50,574

おおよその割合

販売費	42%	42%
一般管理費	58	58

(有価証券関係)

前事業年度(2019年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額は関係会社株式694,300千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2020年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額は関係会社株式524,011千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。



(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	440千円	268千円
未払事業税	3,520	7,152
減価償却超過額	1,410	1,903
資産除去債務	5,327	6,430
退職給付引当金	29,971	33,466
役員退職慰労引当金	19,232	21,708
繰延税金資産小計	59,902	70,929
評価性引当額	19,232	21,708
繰延税金資産合計	40,669	49,220

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年9月30日)	当事業年度 (2020年9月30日)
法定実効税率		30.62%
(調整)	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.32
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		0.07
住民税均等割		0.56
税額控除		1.89
評価性引当額の増減		0.61
税率差異		1.85
その他		0.23
税効果会計適用後の法人税等の負担率		28.07

(重要な後発事象)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	16,955	770		1,622	16,102	14,776
	工具、器具及び備品	9,941	2,544		4,106	8,379	25,229
	計	26,897	3,314		5,728	24,482	40,005
無形固定資産	ソフトウェア	193,269	69,420		59,512	203,177	
	その他	291				291	
	計	193,561	69,420		59,512	203,469	

## 【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	1,436	875	1,436	875
役員退職慰労引当金	62,802	8,082		70,885

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 公告掲載URL <a href="https://www.cri-mw.co.jp/">https://www.cri-mw.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めてあります。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第19期)(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)2019年12月20日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年12月20日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

(第20期第1四半期)(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)2020年2月14日関東財務局長に提出

(第20期第2四半期)(自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)2020年5月15日関東財務局長に提出

(第20期第3四半期)(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)2020年8月7日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

2019年12月26日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

2020年5月14日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。

2020年11月25日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年12月18日

株式会社 C R I ・ミドルウェア  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 中 崇

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金 野 広 義

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社C R I ・ミドルウェアの2019年10月1日から2020年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社C R I ・ミドルウェア及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表

の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社CRI・ミドルウェアの2020年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社CRI・ミドルウェアが2020年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

##### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

##### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

##### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。



## 独立監査人の監査報告書

2020年12月18日

株式会社 C R I ・ミドルウェア  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 中 崇

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金 野 広 義

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社C R I ・ミドルウェアの2019年10月1日から2020年9月30日までの第20期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社C R I ・ミドルウェアの2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基

づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。